

泉南市教育委員会会議 令和6年第8回定例会会議録

(1) 日時・場所

令和6年8月21日(水)

午後1時30分 開会 午後5時36分 閉会

泉南市埋蔵文化財センター 講堂兼視聴覚室

(2) 教育委員会出席者

富森 ゆみ子	教育長
太田 淳子	教育委員会委員(教育長職務代理者)
湊 久晶	教育委員会委員
飯沼 治美	教育委員会委員
辻野 治重	教育委員会委員

(3) 事務局出席者の職氏名

桐岡 秀明	教育部長
三野 薫	教育部参与
川口 哲生	教育部次長兼指導課長
水田 好彦	教育総務課長
上柴 忠孝	教育総務課参事(学校給食センター所長)
服部 雄二	生涯学習課参事(青少年センター館長)
森 大輔	生涯学習課参事(人権・スポーツ担当)
石橋 広和	文化振興課長
阪上 広太郎	指導課参事(指導担当)
石田 剛王	学力向上対策室長兼指導課参事(指導担当)
鳴戸 大輔	人権国際教育課長
小林 克子	教育部教育サービス課長兼教育サービス係長

(4) 休憩・遅刻等について

休憩 午後3時00分から午後3時05分まで

休憩 午後4時57分から午後5時10分まで

(5) 会議録署名者の氏名

富森 ゆみ子
太田 淳子

泉南市教育委員会会議 令和6年第8回定例会 議事日程

令和6年8月21日（水）午後1時30分 開会

泉南市埋蔵文化財センター 講堂兼視聴覚室

日程番号	議案等の番号	件 名
日程第1		開 会
日程第2		会議録の承認
日程第3	報告第1号	会議録署名者の指名
日程第4	報告第2号	教育長報告
日程第5	報告第2号	事務局報告
日程第6	報告第2号	（1）泉南市いじめ重大事態に係る調査結果の公表に関するガイドラインの策定について
日程第7	報告第2号	（2）泉南市就学援助費支給要綱の一部改正について
日程第8	議案第1号	令和7年度使用泉南市立中学校教科用図書の採択について
日程第9	議案第2号	令和6年度大阪府泉南市一般会計補正予算要求（教育委員会所管分）について
日程第10	議案第3号	泉南市立学校におけるいじめ事案に係る重大事態について
日程第11		その他
日程第12		・せんなん子ども相談の運用状況について

午後 1 時 30 分開会

○冨森教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから、泉南市教育委員会会議令和 6 年第 8 回定例会を開催いたします。

出席者が過半数であり、定足数に達しておりますので、会議は適法に成立いたしました。

○水田教育総務課長 日程に入る前に、本日、傍聴希望の方が 12 名いらっしゃいますので御報告いたします。

○冨森教育長 ただいま、傍聴希望について報告がございました。傍聴人に入室していただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○冨森教育長 それでは傍聴人に入室していただきます。

(傍聴人入室)

○冨森教育長 それでは、傍聴される皆様をお願いいたします。泉南市教育委員会傍聴人規則により次の 3 点を守っていただくことになります。

1 点目は、同規則第 6 条により、私語、会議場の言論に対し批評し、可否の表明をしないこと。

2 点目は、議事の妨害となるような行為をしないこと。

3 点目は、同規則第 7 条により、写真、ビデオ撮影、録音をしないことです。

また、同規則第 8 条により、退場を命じることがございますので、あらかじめ御承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、これより日程に入ります。

日程第 1、会議録の承認についてお諮りいたします。

泉南市教育委員会会議令和 6 年第 7 回定例会会議録は、既に案として委員の皆様へ配付をいたしており、確認をいただいておりますので、

原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○冨森教育長 全員異議なしと認めます。よって泉南市教育委員会会議令和 6 年第 7 回定例会会議録は、承認することに決定いたしました。

次に日程第 2、会議録署名者の指名を行います。

本日の会議録署名者は、泉南市教育委員会会議規則第 13 条により、教育長のほかに教育長において、太田委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。

それでは、次に日程第 3、教育長報告を議題といたします。

(報告開始)

それでは、改めまして皆様こんにちは。

本日は令和 7 年度中学校教科用図書の採択がございましたので長時間の会議となるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

前回の教育委員会会議は、学校の夏休み直前でしたが、終業式には「KIRAMEKI☆SUTEKI 泉南っ子」や児童会、生徒会サミットなど、子どもたちのすてきな姿をたくさん見ていただけたのではないかと思います。

そんな夏休みもあと 1 週間ほどでございます。休み中は、私も公民館の自習室や青少年センターが主催する夏休み遊び広場、また青少年センターの様子なども見てまいりました。公民館では、ふだんあまり子どもが訪れる機会が少ないということもあって、自習室には大学生がちらほら来ている程度という話も聞きました。また、自習室として使えるということのアピールを引き続き考えていかないといけないと考えております。

また、こちらの埋蔵文化財センターでも子ども向けのイベントを行っておりまして、8 月 9 日の日にはきしわだ自然資料館の方が来てくださって、三葉虫の化石のクリーニング体験というのを行いました。私も実際に貝や植物の化

石に触らせてもらい、なかなかそういう機会がないので、すごく子どもたちにとってもいいなと思っています。また、現在、銅鐸（どうたく）の展示を展示室でやっていますが、23日には弥生文化博物館の方の御協力をいただいて、銅鐸せっけん作り体験を行う予定です。

また、公民館でも24日の日に化石のレプリカづくり体験というのがありまして、こちらについても、今、市のウェブサイトでスマート申請といって、スマートフォンを使って申込みができるんですけれども、そういったものを取り入れた効果もあって、たくさんの申込みをいただいているという報告を受けております。

また、7日には泉南地区の青少年赤十字指導者講習会というのがございます、日本赤十字社大阪支部の方が「おうちでできる防災」という話をしてくださって、翌日に宮崎県で大きな地震がありました。南海トラフの注意報が1週間で一応一区切りになりましたけれども、やはりそういった防災減災も日々考えていかなければいけないのかなと思っています。

また、7日の午後には文化ホールで本年度の教職員研修を行い、昨年度に引き続き、京都市で小中一貫校の校長をされていた初田幸隆先生の講演やシンポジウムを行いました。会場の参加者ともやり取りをしながら具体的な小中一貫の取組についてお話をいただきまして、とても参考になったところでございます。

それから、9日の日には泉南地区教育委員会連絡協議会がございまして、湊委員、飯沼委員と私で出席してまいりました。和歌山大学の本山学長から「高等教育の将来像」という演題で御講演をいただきまして、データや写真を使いながら、大学の学長がどんな仕事をされているかということをお話しいたいて、大変勉強になりました。その後、情報交換会では他の市町の教育委員の方々ともいろいろとお話をさせていただいたので、とてもよかったなと思っています。

今年度は岬町が会長市で、私どもが副会長市

なんですけれども、来年度は泉南市が会長市になるので、夏の総会の講師とか、昨年度の秋に行った和泉学園の研修会の担当になります。泉南市に来年来ていただくところも考えないといけないので、そういった内容についてはおいおい御相談をさせていただければと思っております。

私からは以上でございます。

それでは、ただいまの報告に対し、御質問・御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようですので、以上で、本報告を終了させていただきます。

（報告終了）

次に、日程第4、報告第2号、事務局報告となりますが、本日は、日程第5、議案第1号において、令和7年度使用泉南市立中学校教科用図書の採択についての議案審議を予定しております。

本議案については、審議に時間を要する見込みであるため、本日は、日程5から日程7までの議案審議を日程第4の事務局報告の前に行いまして、日程変更をしたいと考えておりますが、この日程変更については御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**冨森教育長** それでは、日程の順を変更いたしまして、日程第5、議案第1号、令和7年度使用泉南市立中学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

それでは、本議案の説明を、川口教育部次長兼指導課長からお願いします。

○**川口教育部次長兼指導課長** 失礼いたします。本日は長丁場になると思いますが、よろしく願いをいたします。

それでは私から御説明をさせていただきます。

今回採択いただきますのが、令和7年度から

使用する中学校教科書の 16 種目となります。教科書は、小中学校の主たる教材として使用義務が課せられておりまして、教育上で極めて重要な役割を果たしています。市内の児童生徒にとって最適な教科書を採択することは、教育上大切なことでございます。

それでは、本日の資料の確認からお願いを申し上げます。

まず、選定委員会からの意見書、こちらの A 4 版になります。続きまして、3 番の令和 7 年度使用中学校教科用図書の推薦用紙、続きまして、A 4 の令和 7 年度使用中学校教科用図書調査研究用紙、そして、議案の中に含まれる形になるんですけれども、議案第 1 号のところ。3 ページから 8 ページに記載しております、泉南市立義務教育諸学校利用図書選定委員会に関する規則、義務教育学校教科用図書選定委員の運営要領、そして最後に、教科書採択の仕組み等を記載しておるものでございます。よろしいでしょうか。

それでは、まず、意見書から御説明をさせていただきます。意見書の 1 ページを御覧ください。「はじめに」のところでございます。

この意見書につきましては、「泉南市立義務教育学校諸学校教科用図書選定委員会規則」第 2 条「委員会は、義務教育諸学校の教科用図書の調査及び研究を行い、教育委員会に対して意見を述べるものとする」によるものでございます。

また、選定委員会では、同規則の第 7 条によりまして、中学校の各種目について、2 名から 3 名の調査員を置き、1 か月以上にわたりまして専門的な教科書の調査研究を行ったところでございます。

2 ページをお開きください。選定委員会の経緯でございます。これまで 4 回の選定委員会を開催しまして、慎重に審議を重ね、本意見書を取りまとめたところでございます。

3 ページから、第 4 回の選定委員会の内容では、中学校の各種目について、数種類ある発行

者の中から、種目、科目によってでございますが、1 者または複数の発行者を推薦しております。推薦経緯については、どのような経緯で推薦されたのか、また推薦されなかったのかを明確にするため、推薦理由や問題点も挙げております。

そして、この意見書の 22 ページ、最後のページに、本選定委員会の名簿をつけてございます。

簡単ではございますが、以上で意見書の説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○冨森教育長 ここまでの説明に対して、何か御質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて、教科用図書の採択についての審議に移ります。

さて、これから教育委員会として泉南市の中学校生徒、教職員にとって最適な教科書を 1 種類採択していくわけですが、その際に参考にさせていただくのが、先ほど説明がございました選定委員会意見書となります。

選定委員会の意見書、調査員からの推薦資料なども参考にしながら、御審議をお願いいたします。

ちなみに、推薦されなかった教科用図書につきましても推薦資料に掲載しておりますので、御参考にしてください。

それでは、まず初めに国語から審議を始めたいと思います。御準備はよろしいでしょうか。

国語では、選定委員会から、教育出版、光村図書の 2 者が推薦発行者となっております。選定委員会が教育出版、光村図書の 2 者を推薦した理由を事務局から説明願います。

○川口教育部次長兼指導課長 失礼いたします。それでは御説明申し上げます。

まず、選定委員会で、2 つのポイントを中心に議論をしたところでございます。1 つ目としては、泉南市の課題でもあります「書くちから」を高める工夫がなされているか。そして 2 つ目

は、語彙を高める工夫がなされているかでございます。

それでは、初めに教育出版の1年生の国語の教科書36ページをお開きいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

この36ページ右上に、「学びナビ」というものがございます。これによりまして、一定の教科書の学び方の段階、ここで言いましたら段階、役割というものが記載されております。

続きまして、44ページにお進みいただきたいんですけども、こちら「みちしるべ」ということで、内容を捉える、そして読みを深めよう、自分の考えを伝えようと、この3つのステップで学習を進めるといった、詳細に進める内容が書かれておりまして、生徒自身で個別最適な学びを進めていくことができるのではないかなというのが意見としてあったところでございます。

次に、恐れ入ります、光村図書の教科書を御覧ください。参考に、1年生でお願いしたいんですけども、267ページに「語彙ブック」というのがついております。この「語彙ブック」が収録されていることによりまして、1枚おめくりいただくと、情景を表す言葉が例にあり、こういうのを集中的に学習をすることができるというような意見がございました。

また、28ページを御覧いただきたいんですけども、「学びの扉」というのがございます。ここにはいろいろな学習をこの1ページで見通しができるような進め方が、この1ページで理解できて、進めていけるのではないかなというのが委員会の意見がございました。

続いて、東京書籍を御説明させていただきます。1ページに対する文字数と情報量が他者に比べて多いのではないかなという意見がございました。

続きまして、三省堂になります。こちらの教科書につきましては、「読み方を学ぼう」が、「学び方」を示しているという御意見があったんですけども、内容も、図なども使って大変分か

りやすい。でも、片や、表紙やイラスト、例えば「竹取物語」というのを例に取ったんですけども、中学の教科書として適しているのか少し疑問が残るという選定委員会の意見がありました。

委員会としての意見としては、以上でございます。

○冨森教育長 それでは、ただいまの説明に対し、御質問等はございませんでしょうか。ちょっと教科書を見ていただいてからの方が、お時間取っていただいてもいいかと思うんですけども、今説明のあったページを中心にいただければと思います。別のことでもちろん結構です。

湊委員、お願いします。

○湊委員 光村図書の「学びへのとびら」と教育出版の「学びナビ」というのが、生徒自身で学びを進めていけるのではないかなという意見がありましたが、この2者での違いというものはあるのでしょうか。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 光村図書の45ページの「学びのとびら」というのと、教育出版の1年生の36ページを比較していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

教育出版の「学びナビ」の方は、詳細に書かれているというのが見比べていただくと分かるかと思います。また、光村図書の「学びのとびら」のところなんですけれども、端的にまとめられているというのが捉え方でございます。

選定委員会では、教育出版の「学びナビ」が詳細に書かれているところでございますが、自身で学びを進める良さである反面、文量が多くなって、学習の進度に差が出る可能性があるのではないかなという意見もあったというのが現状でございます。以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに御質問などございませんでしょうか。
太田委員、お願いします。

○**太田委員** 光村図書には「語彙ブック」というのが収録されているということなんですけど、ほかの教科書にはそのような学習内容が示されているのでしょうか。

○**冨森教育長** いかがでしょうか。川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長**

また見比べていただきたいと思います。もうすぐですが、今おっしゃった光村図書以外にも「文法」に関する学習内容は示されているところがございます。お手数なんですけど、東京書籍の1年生の230ページを御覧いただきたいんですけども、やはり今申し上げたとおり、「文法とは国語の単位」とかいう形で示されているところがございます。しかし、光村図書の「語彙ブック」というのは、先ほども御説明させていただいたんですけども、情景描写であるとか思考の言葉など、ふだんの学習でつい流してしまいそうな場面に焦点を当てているのが、選定委員会では優れているのではないかという意見がありました。

以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに御質問、また御意見等はございませんでしょうか。

辻野委員、お願いいたします。

○**辻野委員** 教育出版の「学びナビ」は詳細に書かれているのが具体的でいいですね。光村図書の「学びへのとびら」ですけど、そちらの

方は端的で分かりやすいのではないかなと思います。さらに中心活動が色分けされているのも視覚的に良くて分かりやすいかなと思いました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに御質問、また御意見などございましたらお願いいたします。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 私は光村図書の「語彙ブック」が非常に面白い教材だと感じました。二次元コードに小学校で習った「言葉の宝箱」が記載されているのも小学校からのつながりを意識しているなと感じました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御質問、また御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

今、委員の皆様から一通り御意見、御質問を頂戴したんですけども、今回推薦委員会からは2者の推薦がありましたが、今までの御質問や御意見を伺っておりますと、光村図書の教科書が特徴的でよいのではないかという御意見が多いようですので、光村図書の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**冨森教育長** それでは、国語につきましては光村図書を採択したいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次に書写の審議に移りたいと思いますので、お手数ですが教科書の入替えをお願いしたいと思います。

資料の御準備よろしいでしょうか。選定委員会の意見書では4ページが書写になります。

それでは書写の審議に移りたいと思います。書写については、光村図書が推薦発行者となっております。選定委員会が光村図書を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明を申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議論をいたしました。まず1つ目は、教科の特性上、お手本をまねて書くという過程が必要となる中、お手本が実寸大であるかどうか。2つ目は、書き込む枠の大きさなど、子どもたちにとって使い勝手がよいものであるかどうかというところの点でございます。

それでは、初めに光村図書を御覧いただきたいです。お手本の字が実寸大で、例えば42ページ、お開きいただけますか。見ていただきましたら、「天地」というような形で実寸大のお手本がございます。これがワーク内に字を書き込む際の枠の大きさが適当であるなど、使い勝手のよさが選定委員会で挙げられました。さらに、書写に関する知識及び技能についての事項を身につけるためにも、別冊という形で、書写ブックというのがまとめられております。それもいいのではないかという意見がありました。

引き続き、東京書籍ですけれども、見ていただきましたら、お手本の字が小さいのではないかという意見です。硬筆での取組であるとか活動の紹介に特化して書かれている部分と、そして、毛筆の取組に関する単元が少ないのではないかと、また、硬筆が練習できる別冊も、このように書写ブックみたいなものがないというのが一定の意見としてございました。

次に、三省堂を御覧いただけますでしょうか。見ていただきましたら、すごく解説は詳しいということでございます。ただ、内容が難しく、情報量が多く、書写に苦手意識がある生徒にとっては少しハードルが高く感じられるという懸念はないのかというところでございました。また、ワークに書き込む際の枠が小さい。枠に収めて書くことが難しいと感じる生徒もいるのではないかとということで、配慮が必要ではないかという意見がございました。

次に、教育出版を御覧ください。見ていただいたら、説明も多くて、理解すべきポイントを見分けるのが難しいのではないかと、硬筆が練習できる別冊もついていないということで、さらに、ワークに書き込む際の枠が小さいという意見もございました。

以上が選定委員会での書写に対する意見でございます。よろしくお願いいたします。

○冨森教育長 それでは少しまた見ていただきまして、御質問等をいただきたいと思います。ちょっと書写の教科用図書を御確認お願いいたします。

湊委員、お願いいたします。

○湊委員 先ほど説明の中で光村図書ものを使い勝手がよいということを言われましたけれども、それは一体どういうことなのか、具体的に教えていただきたいです。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 光村図書で見たいんですけれども、ワーク内に字を書き込む際の枠の大きさということになるんですけれども、書写ブックの一冊にまとめられているというのが付け加えてあります。それと、恐れ入ります、14ページをお開きいただきたいんですけれどもよろしいでしょうか。部首の部分が赤く示されており、見やすくなっている点というのがございます。さらに、42ページも御覧ください。書道のお手本、先ほども申し上げましたが、実際の半紙と同じような大きさとなっているというところが分かりやすく、指導しやすいのではないかとこの点が、いいということで挙げさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに御質問はございませんでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○飯沼委員 ワークに書き込む際の枠の大きさが挙げられているのですが、詳しく教えていただいていいですか。お願いします。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 全者全てのページを調べたということではないんですけれども、複数ページにわたり4者を比較させていただきました。例えば光村図書の書写ブックなんですけれども、細かいお話になるんですけど、1.7センチメートルございました。他者の3者は1.5センチメートルと若干の差があるということが分かりました。

この大きさは、一般的な小学校の漢字練習ノート1マスよりも大きいサイズでして、中学生となって、微細な動きとか、小さな字で書くことができるようになっていく生徒も多くいらっしゃるというのは分かるんですけれども、いわゆる字の形を整えることを考えていきますと、この光村図書の少し大きいというところが良い点ではないかというふうに考えております。以上です。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。ほかに御質問、また御意見等はございませんか。

辻野委員、お願いいたします。

○辻野委員 枠の大きさについては、2ミリメートル程度のことで、僅かな差ではあるとは思いますが、現場の先生が御覧になられて必要であるということであれば、重要な点ではないかなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。光村図書の枠の大きさというのが、少し大きいというのは重要な視点だという御意見だと思います。

ほかに御質問、また御意見等はございません

でしょうか。

太田委員、お願いします。

○太田委員 各者すごくよくできていて迷うところなんですけど、特に光村図書がいいなと思う点は、先ほどおっしゃっていただいたように、このままでお手本として使えるという大きさ、それと、いろいろ説明も書いていただいているんですけど、なるべくそれを抑えて、すごくメリハリが効いていて、学びやすい教科書だなと思いました。

○冨森教育長 ありがとうございます。光村図書の教科書は見やすく、分かりやすいのではという御意見だったかと思います。

ほかに御質問、御意見等はございませんでしょうか。よろしいですか。

先ほどからの御質問、御意見等をお伺いしていますと、書写としましては、推薦のとおり光村図書がよいという御意見が多いようですので、書写については光村図書を採択してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○冨森教育長 それでは、書写につきましては光村図書を採択したいと思います。

それでは、教科書の入替えをお願いしたいと思います。次は社会科の地理の審議に移りますので御準備をお願いいたします。

意見書は5ページになります御準備よろしいでしょうか。

それでは、意見書を御覧いただければと思いますが、地理では、帝国書院が推薦発行者となっております。選定委員会が帝国書院を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議

論をしたところでございます。1つ目は、協働的で深い学びにつながる教材が豊富であるかどうか。2つ目は、資料やコンテンツの豊富さで、通常の学習に加えて、個人の振り返りや、家庭学習をする際に扱いやすいかというところでございます。

それでは初めに、帝国書院の2ページをお開きいただけますか。こちらですけれども、上部に、問い、そして課題では、協働的に学習する場面が設定されておりまして、「主体的・対話的な深い学び」ができるようになっていいると考えます。そして、イラストであるとか、地図、写真などで地域を概観し、興味関心を抱かせる工夫がされているという意見がこの教科書でございました。

次に、東京書籍を御覧ください。「みんなでチャレンジ」というコーナーがございます。このコーナーにつきましては、個別学習と少人数での協同学習ができるように工夫がなされているという意見がございました。

次に、教育出版に移らせていただきます。写真や挿絵、図、表などの資料を見やすく比較しやすいよう配置し、生徒に興味関心を抱かせて効果的に学習できるように工夫がなされているというのが、この教育出版の、全般の意見でございました。

次に、日本文教出版を御覧いただきたいんですけれども、見開きを開いていただきましたら、右下になるんですけれども、どのページも、「確認」、そして「表現」のコーナーでは、個別学習が進められる工夫がされているのではないかと意見がありました。

以上でございます。

○冨森教育長 それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問等はございませんでしょうか。また教科書を見ていただきながら御質問、検討いただければと思います。

飯沼委員、お願いいたします。

○飯沼委員 コンテンツ数や資料の豊富さについて、各者の違いを教えていただいてもいいですか。お願いします。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）、お願いします。

○阪上指導課参事（指導担当） どの者のものも、クイズや図の読み方など、大差はなかったんですけれども、例えば帝国書院のもので、巻頭6ページを開けていただけますでしょうか。こちらのページは他者よりも種類が豊富で、クイズや図の読み方だけではなくて、アニメーション動画であったり、ワークシートであったり、そういったものの種類が非常に豊富であるように思われました。さらに具体例を申しますと、2ページには動画サイトであったり、4ページには小学生クイズ、8ページにはアニメーション、42ページには学習を振り返るワークシート、47ページには学習の見通しスライドというものがございました。

○冨森教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんでしょうか。
辻野委員、お願いします。

○辻野委員 御説明いただいた協働的で深い学びにつながる教材に関して教えていただきたいんですが、お願いします。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当）

調査員からの報告で、協働的で深い学びにつながる教材に関しては、例えば、帝国書院の90ページ、150ページ、214ページ、281ページにあります「アクティブ地理」という題材のページがございます。東京書籍と比較させていただきたいので、東京書籍の図書をお願いします。

東京書籍の35ページや、55ページにあります「みんなでチャレンジ」という、この2者、挙げられました。この挙げられた2者が、個人学習であっても協働学習であっても学習しやすいのではないかと、優れているのではないかとという見解でした。強いて言うなら、帝国書院の「アクティブ地理」、こちらだと、グループ学習などのパフォーマンス課題に適したつくりになっていて、歴史や公民とも関連した設定になっているのではないかとという御意見がありました。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに御質問はございませんか。よろしいでしょうか。それでは、次に、御意見をいただきたいと思っています。どなたか御意見のある方、お願いできませんでしょうか。

湊委員、お願いします。

○湊委員 帝国書院の「アクティブ地理」という特集ページですか、90ページにもありますし、150、151ページにもありますけれども、150ページ、151ページは防災に関するページなんですけれども、つい最近も南海トラフ大地震といっているんなことが話題にもなりましたし、いつどこで災害が発生するか分からないというような今において、こういったことを考えていくのは大変貴重で、自分自身のこととして考えられるので、よい課題だなと思いました。

○冨森教育長 ありがとうございます。

ただいま、帝国書院についての御意見でございました。

ほかに何か御意見等はございませんでしょうか。

太田委員、お願いします。

○太田委員 私も地理をアクティブな、リアルなものとして捉えるというのはすごくいいことだなと思います。また、平和学習とか人権学

習について、一定の記載があるものとして、網羅されているという点でも、帝国書院がいいのではないかなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ただいまお二人から帝国書院についての御意見頂戴しました。意見書の推薦も帝国書院でございまずので、ただいまいただいた御意見も帝国書院という御意見が二つ出ましたので、地理につきましては、帝国書院の教科書を採択してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○冨森教育長 社会科地理につきましては、帝国書院を採択いたします。

それでは、また教科書の入替えを行いたいと思います。次は、社会科の地図についてお願いいたします。

社会科の地図、意見書は6ページを御覧ください。御準備よろしいでしょうか。

それでは、地図につきましては、意見書を御覧のとおり、帝国書院が推薦発行者となっております。選定委員会が帝国書院を推薦した理由を、事務局から御説明お願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議論したところでございます。まず1つ目は、地図帳の活用を通して、生徒が主体的に学習できる、生徒同士が対話する等の活動ができ、学びが深まるようになっているかという点です。そして2つ目は、デジタルコンテンツは中学生が使用するのに取扱いやすいようになっているかという点がございました。

初めに帝国書院の地図を御覧いただきたいと思います。調べ学習など社会科の学習のみならず、修学旅行であるとか校外学習でも活用できる資料や都市図が多数掲載されているとい

うのがございました。

地図帳を御覧いただいて、今申し上げた修学旅行とか校外学習で使えるというところで、まず 85 ページを御覧いただきたいんですけども、例えば沖縄県の修学旅行で行くところになるんですけども、那覇市であるとかがここに記載されています。

次に、95 ページを御覧いただきたいんですけども、広島県には修学旅行で行くのが多いかと思うんですけども、左を見ていただきましたら、広島市の中心部の地図が挙げられております。

そしてもう一つ、112 ページ、大阪府も大阪市内が挙げられており、これが多数掲載されているという意味で、御説明した内容になってございます。

そして、帝国書院につきましては、防災学習のページというのが設けられておりまして、主体的な学びにつながる資料が含まれているのではないかという意見がございました。

続きまして、東京書籍でございます。多彩なデジタルコンテンツが準備されているのですが、難易度が少し高いのではないか、中学生が自分だけで活用するには難しいのではないかという、そういった意見が出ました。

以上でございます。

○冨森教育長 ありがとうございます。ただいま説明がありましたが、少しまた地図を見ていただきまして、その後御質問をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

辻野委員、お願いします。

○辻野委員 先ほど説明いただきました防災学習のことについて、具体的にもう少し教えていただけますでしょうか。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明のとき

に防災学習のページを御案内できておりませんでした。申し訳ございません。

帝国書院の 159 ページを、再度お開きいただきたいと思います。こちらに、今御質問いただきました防災学習として、まず「日本の自然災害・防災」ということが挙げられております。そして、次のページに進みましても、2 として同じように「日本の自然災害・防災」というのが挙げられております。

特に、162 ページに、ハザードマップというような形で、地形の比較から防災における地図の有用性を理解できる工夫がされているのではないかという意見がありました。

以上でございます。

○冨森教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問等はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、次に御意見を伺いたと思います。地図につきまして御意見、何かございましたらよろしくお願いいたします。

太田委員、お願いします。

○太田委員 調べ学習など、地図帳を社会科以外の時間で資料として活用しやすいという点から帝国書院の地図がいいかなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。見ていただいて、何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

ただいま、帝国書院がいいのではないかという御意見をいただきましたけれども、特にほかに御意見ないようでしたら、推薦のとおり、地図につきましては帝国書院の地図を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○冨森教育長 それでは、地図につきましては、

帝国書院の地図を採択したいと思いますので、
よろしく願いいたします。

では、次に、社会科の歴史の審議に移りたい
と思いますので、教科書の入替えをよろしくお
願いします。

意見書は7ページと8ページに分かれてい
ますので、全体御覧いただければと思います。
たくさん数があるんですけども、御準備よろ
しいですか。

それでは審議を始めたいと思います。

意見書7ページにあるとおり、歴史では、東
京書籍・帝国書院・日本文教出版の3者が推薦
発行者となっております。

選定委員会が東京書籍・帝国書院・日本文教
出版の3者を推薦した理由を事務局から説明
お願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明申し上
げます。選定委員会では、会社数が9者と非常
に多いため、用語が太くなっているとか、内容
が専門的過ぎないか、また、本文が読みやすい
といった、授業での扱いやすさ等を比較して推
薦者を選定いたしました。加えまして、協働的
で深い学びにつながる教材に関すること、また、
二次元コードなどのコンテンツの内容について
も審議をしたところでございます。

それでは、初めに東京書籍を御覧いただきた
いと思います。26ページ、お開きいただけます
か。こちらの中段より上に、「学習課題」という
形で課題が明確に記載されております。そして、
各ページの下段に、「チェック」、これが24ペー
ジ下、また、25ページ下に「トライ」というチ
ェック項目が設けられております。また、時間
ごとに知識・技能、思考力が育成されるように
なっていること、コンテンツが豊富であり、資
料の拡大や用語解説が生徒の興味に応じてで
きるようになっていて、「個別最適な学び」とい
うものが実現されているのではないかなという
意見がございました。

恐れ入ります。次に、帝国書院を御覧いただ
きたいと思います。例えば4ページです。ペー
ジ開いていただきましたら分かるんですけど、
基本的に1見開き1単位の授業が想定されて
いるような仕組みになっております。

また、学習課題が簡潔に設定されておしまし
て、語句の解説であったり、各ページに黒丸
が示されておまして、語句の解説欄になって
おります。また、解説資料のページ数というの
が下に書かれております。語句のページ数の下
に書かれておまして、コンテンツが豊富であ
る。それで内容が分かるというような形で、理
解ができるかと考えます。なお、コンテンツが
豊富で使いやすいものになっているというこ
とに加えて、協働的で深い学びにつながる
学習にもよいという、この教科書の中の総合的
な意見がございました。

次に、日本文教出版を御覧ください。この教
科書出版なんですけれども、教科書コンテンツ
に生徒が主体的に取り組める環境が整ってい
ると。表現力も養うことができる表現である
ということで、例えば63ページをお開きいただ
きたいんですけれども、ここに2か所自由記述
というのがあります。これ以外に、話型を示し
て取り組みやすいというような、括弧で囲って
いるところですね。それぞれイラストを使って
話型を示して、取り組みやすいような部分があ
るというような意見をいただきました。

次に、教育出版でございます。内容としまし
ては、歴史学習の最後になんですけれども、公
民的資質の育成を踏まえて地理・歴史・公民の
3分野でSDGsの視点を取り上げているという
ところで、単元のまとめ（学習のまとめ）が授
業の中では少し使いにくいのではないかな、そ
して年表が見にくいという意見が若干ありま
した。

次は、山川出版になります。全体的に字が小
さいのではないかな。そして、一部の用語が専門
的過ぎて中学生には少し分かりづらいという
意見がございました。

次に、自由社になります。出版社の送っていただいた冊数の都合で、本日お手元にない方もあると思うんですけども、自由社につきましては、各章の最初に年表がございまして、小学校で学んだ人物を確認できるようになっている。また、章末のまとめは、例文が多過ぎるなど、生徒が考えるようになっていないという意見がありました。

次、育鵬社になります。章のまとめでは、各時代との共通点や相違点に着目しながら、言葉や図で表すことなどによって特色を捉える課題を設定していますが、表現問題が問いかけだけとなっていて、扱いづらいという意見がございました。

そして、学び舎。教科書内の記述が物語的であり、重要語句が分かりにくい。また、太字での記載がなくて、用語の確認に不向きではないかという意見がございました。

また、令和書籍については、教科書の分厚さであるとか、カラー写真ではないという意見がありました。すみません、令和書籍につきましては1冊しか送ってきていただけないということがありまして、本日皆様にお配りできておらず、教育長が見ていただいている1冊でございます。

説明は、以上になります。よろしくお願いいたします。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

事前に見本を見ていただいた機会に令和書籍の本も御覧いただいているかと思うんですけども、本日改めて御覧になりたいということでしたらお知らせいただければと思います。今回歴史は冊数が多いので、少しお時間取って見ていただいた上で、御質問ある場合はお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 先ほどの説明の中で、何者かがコンテンツが豊富であるとか資料が豊富であると

かいう話がありましたけれども、それぞれで違いというのはあるのでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事(指導担当)、お願いします。

○**阪上指導課参事(指導担当)** コンテンツ数が多かったのは東京書籍と帝国書院です。東京書籍では15個のコンテンツがありました。導入・展開・まとめのそれぞれの場面で使えるような動画であったり、資料、ワークシート、思考ツールが用意されていました。

帝国書院では12個のコンテンツがありました。こちらは、どちらかというと個別最適な学びにつながるものが多く、用語解説や動画コンテンツ、帝国書院の地理の教科書と公民の教科書、地図帳と連動した他分野リンクというものもありました。

○**冨森教育長** 三野教育部参与、お願いします。

○**三野教育部参与** 3つ目の日本文教出版につきましては、16ページ、17ページにICTの活用にもつながっている発表についての資料があるということで聞いております。つけ加えて、以上です。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

たくさんあるので、見ていただきながらで結構ですので、また質問等ありましたらお願いいたします。

推薦図書が3者あるので、見比べていただきながらで結構です。

太田委員、お願いします。

○**太田委員** 先ほど事務局から御説明いただいた中で、協働的で深い学びにつながる教材に関する事を審議とお伺いしたんですけども、この3者の中では、どこの教科書会社にな

ったんでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事(指導担当)、お願いします。

○**阪上指導課参事(指導担当)** 帝国書院と東京書籍の2者が挙げられていました。例えばですけれども、帝国書院で言いますと、34ページ、154ページにあります「アクティブ地理」、東京書籍の62ページや、142ページにあります「みんなでチャレンジ」、この2者の協働的で深い学びにつながる教材がいいのではないかと挙げられていました。帝国書院は、さらに加えますと、26ページや64ページにあります「タイムトラベル」、こちらは単元の導入部分にあるのですが、こちらも協働的な学びに最適であるのではないかという御意見も出ました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。
辻野委員、お願いします。

○**辻野委員** 地理と地図の採択が終わり、歴史の教科書の採択ですけれども、帝国書院が続いてますが、そろっていたほうがいいとか、そういうことってあるんですかね。

○**冨森教育長** ありがとうございます。
川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長** 今御質問いただきましたように、地理、地図は帝国書院の教科書に決定いただいたんですけれども、あくまでも単元教科書ごと選定いただくということになりますので、必ずしも地理と地図は同じ出版社に決定いただくということではございません。教科ごと選定いただくということでよろしく願いいたします。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。
ほかに何かございませんか。
飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 特徴的な課題が扱われていた教科書会社がありましたら教えていただきたいなと思います。お願いします。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事(指導担当)、お願いします。

○**阪上指導課参事(指導担当)** 帝国書院の307ページ開けていただきまして、308、309ページまで御覧いただけたらと思います。こちらは、これからの社会を構想しようというページなんですけれども、これも歴史の最後のページになっていて、歴史から公民へ進む中で、これまで習ってきました各時代それぞれのことについて、「現在」や「SDGs」とつなげて考えるというページになっています。ここだと、ほかの会社さんにはなくて、結構特徴的な課題の部分かなと思っています。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。ありがとうございます。

委員の皆様から御質問いただいたかと思うんですけれども、ほかに、よろしいでしょうか。

それでは、次に御意見をいただきたいと思えます。御意見がある方、お願いいたします。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 帝国書院の1見開き1時間で授業が想定されていることなんですけれども、勉強する生徒たちにとっても、とても学びやすいというか、いいことなのかなと思いますし、「アクティブ歴史」とか、「タイムトラベル」という課題も興味深い部分でないかなと思いますし、先ほど御説明ありました最後のページの309ページに、これまでの歴史学習を踏まえて未来に手紙を書く、歴史を学んだ後で未来について考え

ようという、大変いい内容であるというふうに
思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。帝国書
院がよいのではないかという御意見だったと
思うんですけども、ほかに何か御意見はあり
ませんか。

太田委員、お願いします。

○**太田委員** 私も1見開き1時間というところ
で、先生方にとってもすごく授業がしやすい
ということは、生徒にも分かりやすい授業を実
施できるんじゃないかなと思います。それと、
ここまでのお話を伺っている限りでは、コンテ
ンツの豊富さや、協働的な深い学びを促す課題
の充実度からすると、帝国書院がいいのではな
いかなと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。今、お
二人から帝国書院がいいのではないかという
御意見がありましたけれども、社会科歴史につ
いては3者の推薦がございましたが、今お二人
から帝国書院の教科書がよいという御意見が
ありました。

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

それでは、帝国書院の教科書がよいという御
意見をいただきましたので、社会科歴史の教科
書につきましては帝国書院を採択したいと思
いますが、よろしいですか。

(「異議なし」との声あり)

○**冨森教育長** よろしくお願いいたします。

それでは、次に社会科公民に移りたいと思い
ますので、お手数ですが教科書の入替えをお願
いいたします。

社会科公民の意見書も2ページに分かれて
おりまして、9ページから10ページになって
おりますので、御参照いただければと思います。

皆様、御準備よろしいでしょうか。

それでは、社会科公民分野では、東京書籍・

帝国書院・日本文教出版の3者が推薦発行者と
なっております。

選定委員会が東京書籍・帝国書院・日本文教
出版の3者を推薦した理由を事務局から御説
明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長** 御説明申し上
げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議
論をいたしました。まず1つ目は、探求、協働
的で深い学びにつながる教材について一定の
量が確保されており、現代の社会問題に対
して取り上げられているか。2つ目は、人権問
題について、内容が充実しているかという
ところで着目しました。

それでは、東京書籍から説明をさせていただきます。
5ページを開いていただけますでしょうか。右上に「スキルアップ」という、学びの、
公民の基礎的、基本的な技能を身につけるコー
ナーが段階別に記載されておりまして、次に45
ページに進んでいただきたいんですけども、
上の中段に「スキルアップ1」ということで、
公民の学習に欠かせない基礎的、基本的な技能
を身につけるといようなことが書かれてお
ります。そして、1ページ当たりの資料が大き
く記載されているため、若干本文が狭いとい
う意見がございました。

帝国書院を御覧いただきたいと思います。4
ページをお開きいただけますでしょうか。見開
き1ページ分の内容量というのは適切であり、
探求、協働的で深い学びにつながる教材につ
いては、時代に合う新しい内容も含まれてい
たということでございます。53ページにお進みく
ださい。右上のハンセン病療養所に保育園とい
った、ハンセン病の問題の件が取り上げられて
いるとか、73ページ、右上に「ジェンダー
ギャップ指数」、ジェンダーに関することも、あ
と、いろんな人権問題がこの帝国書院では取り
上げられているのではないかという意見がご

ざいました。

続いて、日本文教出版を御覧いただきたいと思います。ページ数としましては70ページ、71ページを開いていただけますでしょうか。こちらの出版社も、見開き1ページ分の内容量というのは適切であるという御意見です。社会参画であるとか、社会の課題に取り組むページとして、72ページに「明日に向かって」、左上に書いているかと思うんですけども、こちらが、生徒が社会に参画するための手がかりが示されているという御意見がありました。そして、権利の記載が泉南市の生徒達にとっても合うのではないかというのがこの出版社に対する意見でございます。

続いて、教育出版ですけれども、「LGBTQ」であるとか、「ハンセン病」とか、「AIの発達」など、様々な人権課題が取り挙げられているというのが確認されました。また、「章のはじめに」なんですけれども、語句クイズのコンテンツがついていて、4択クイズになっていると。また、生徒には取り組みやすそうではあるけれども、そのほかにもウォーミングアップの問いなどもあったと。導入ボリュームも若干多く、思考する量も多い印象があるというのが意見でありました。さらに、生徒にとっては少し負担ではないかというような、こういった量に対しても意見がありました。

続いて、自由社でございます。学習課題の設定が、知識のための追求のみになっているという意見がありました。

そして、育鵬社ですけれども、現代の社会問題が扱われている量が若干少ないのではないかという意見がありました。

以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問等はございませんでしょうか。またたくさん図書があるので、まず見ていただきながら、何か御質問があればと思いますので、少し教科

書を見ていただければと思います。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 帝国書院で、先ほど人権問題についてはページを指定していただいて御説明いただいたんですけども、そのときに、時代に合う新しい内容が含まれているということだったんですけども、それはどの辺りになるんでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事(指導担当)、お願いします。

○**阪上指導課参事(指導担当)** 144ページをお願いします。こちらを見ていただきますと、パン屋さんを起業してみようというページになっております。今まで起業してみようという内容に関してはほとんどなかったもので、目新しいものじゃないかなと思われています。もう一点ありまして、150ページをお願いします。こちらはクラウドファンディングなども書かれておりまして、こちらは今までにない新しい内容かなと思われま

す。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 人権問題の取扱いについて、教えていただけますか。お願いします。

○**冨森教育長** 川口教育部次長兼指導課長、お願いします。

○**川口教育部次長兼指導課長** まず帝国書院を御覧いただきたいと思います。ページは、48ページから53ページまでになるんですけども、「平等権と差別されない権利」ということで、選択できる学校の制服を紹介しているところ

で、近年の多様性を意識した内容になっています。また、コラム「未来に向けて」では、例えば、9 ページに戻っていただきたいんですけれども、多文化共生というようなことが書かれています。さらに、11 ページでしたら、子どもと高齢者、共に過ごすということも書かれています。また、51 ページでは、アイヌ語や、アイヌへの思いというようなことも書かれています。52 ページから始まって、ハンセン病の関係、そしてずっと進んでいただいて、139 ページは、障害者の方の就業などが書かれています。このように、様々な単元でこういった時事問題が取り上げられているということが確認できました。

続きまして、東京書籍を御覧ください。東京書籍の 50～53 ページです。「共生社会を目指して」ということで、部落差別であるとか同和問題に関する人権課題を導入に用いていまして、どの学校でも部落差別についての学習に取り組みやすくなっています。また、右の 51 ページの中段に、「アイヌ民族への差別」や「在日韓国朝鮮人への差別」の撤廃といったものが取扱われており、様々な人権課題について、なくす取組を考えるということを書かれています。

そして、日本文教出版の 50 ページをお開きいただきたいと思います。50 ページから 55 ページまでには、「等しく生きる権利」で、こちらにも部落差別の問題、「アイヌ民族への差別」「在日韓国朝鮮人」の扱い、様々な人権問題についてなくす取組の資料がここに書かれて説明されています。

以上でございます。

○**富森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに、何か御質問等はございませんでしょうか。たくさんページが示されたので見ていただきながらでいいかと思います。

辻野委員、お願いします。

○**辻野委員** 探求とか協働的ということをよく聞くんですけれども、それについて教えていただけますか。

○**富森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）、お願いします。

○**阪上指導課参事（指導担当）** 探求と協働的な課題についてなんですが、帝国書院と東京書籍の課題が面白いのではないかという意見が出ました。

では、まず、帝国書院から説明させていただきます。帝国書院の 22 ページをお願いします。22 ページの題材が「アクティブ公民」というところで面白いなと思ったのが、マンションの騒音問題を解決しようという、上と下の階でうるさいとか騒音問題になったときに、マンションの住民同士でどう話し合ったらいいかという内容です。続いて、64 ページ、こちらが「アクティブ公民」で、課題は、もし自分の家の近くで道路拡張工事が行われたら、自分の家にどのような影響が出るかなど、2 題とも自分事として捉える設定がなされています。また、この際にロールプレイングをしたり、ディベートなどでパフォーマンス課題にもたけているんじゃないかという意見が出ました。

東京書籍の 78 ページをお願いいたします。こちらがすごく面白くて、題材が、誰を市長に選ぶか。マニフェストがあって、いろいろ書かれています。あとは、こういうページだったり、130 ページを御覧いただきたいんです。こちらは、コンビニエンスストアの経営者になったらどうだろうかみたいなことが書いているんです。こちらがすごく題材としてすごく面白い課題となっているんですが、この 2 者を比べたときに、東京書籍が設定に出てくる数字、場面設定における資料、設定の数字が非常に多いんじゃないかという意見が出まして、生徒たちに考える負担が増えてしまうんじゃないかという意見が出ておりました。

以上です。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに御質問ございませんか。様々な視点の御質問をいただき、見ていただくところがたくさんあるので大変なんですけれどもよろしいでしょうか。

それでは、次に、御意見をいただければと思います。何か御意見がある方はいらっしゃいませんか。まずは見ていただいてからで結構です。では、お願いします。

湊委員、お願いします。

○湊委員 探求とか協働的で深い学びというのを、教科書を使った授業の中で自分自身のこととして考えるというのはかなり難しいと思うんですけれども、帝国書院の先ほどお話しいただきました 22 ページのマンション騒音問題とか、64 ページの道路拡張での立ち退きについてというようなものは身近なもので、自分自身のこととして捉えられるのではないかと思います。その点、大変優れていると思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見ございませんか。

太田委員、お願いいたします。

○太田委員 私も、帝国書院の先ほどからおっしゃっていただいている「アクティブ公民」というページをさっと全部見てみたんですけど、すごくよくできているなと思います。授業の中で生徒たちが話し合い、活発な意見を交換しながらしているというのもすごく想像できるし、また、すごくよくできているなという点は、まず問題を提起して、それが自分のことであつたらどうなのか、また、現代社会ではどんなふうになっているのかというのを問題としてしっかりと提起されているというのがすごくいい点だなと思いました。現代の新しい社会の問題とか、時代に合う新しい内容を学ぶ機会があると

いうのはすごく重要なことだなと感じています。

○冨森教育長 ありがとうございます。今、帝国書院がいいのではないかと御意見をいただきましたけれども、推薦は3者からいただいています。ほかに何か御意見はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、ただいまお二人から帝国書院が良いという御意見を頂戴いたしました。公民としましては、帝国書院の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○冨森教育長 それでは、公民につきましては帝国書院の教科書を採択したいと思います。

次は、数学になるんですけれども、大体委員会始まって1時間半ぐらいたちますので、ここで5分間程度休憩等取りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、15 時 05 分まで休憩を取りたいと思います。よろしく願いいたします。

(休 憩 15 時 00 分)

(再 開 15 時 05 分)

○冨森教育長 それでは、そろそろ5分たちますので再開したいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、次に数学の審議に入りたいと思います。意見書は11 ページを御覧ください。

数学につきましては、意見書にあるとおり、教育出版・啓林館の2者が推薦発行者となっております。選定委員会が教育出版・啓林館の2者を推薦した理由を事務局から御説明お願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明を申し上げます。

選定委員会で、2つのポイントを中心に議論がされております。1つ目は、基礎基本の定着、演習という点から教科書内に一定の問題量が確保されているかどうか。2つ目は、問題の難易度のバランスについてでございました。

それでは初めに、教育出版を御覧いただきたいと思います。基礎基本的な内容中心になっているということです。例えば12ページをお開きいただけますでしょうか。各単元前に、1章の横、「整数の見方を学習する前に」ということで、こういった内容が単元の前に挙げられています。また、22ページもお開きいただきたいんですけども、2章でも、「正の数・負の数を学習する前に」ということで、これから学ぶ事項を確認して、学習がスムーズに入れるようにつなげているというところがございました。63ページをお開きください。ここに、例えば「学習のまとめ」ということでまとめの教材、64ページで「章の問題」、そして、66ページに「学んだことを活用しよう」といった3段階に分けて配置がされていて、一定以上の問題数が確保されているという御意見がございました。

次に、啓林館の教科書を御覧いただきたいと思います。実社会の問題から理論を学習をして、その理論を使い実社会の問題解決へとつなげる流れを一貫して採用しているということがございます。教科書を見ていただきたいんですけども、54ページをお開きください。上にも書いているんですけども、章末問題として「学びをたしかめよう」。そして56ページに進んでいただきましたら、また章末問題として「学びを身に付けよう」と2段階に分けられていて、一定以上の、こちらも問題数が確保されているという御意見がございました。

続いて、東京書籍については、基礎的な問題、必ず解けるようにしたいような問題ということなんですけれども、ページ見ていただけたらハートマークが入っていて視覚的に捉えやすくしています。また、文字も大きめで、見やすく良いという意見がありました。一方で、全

体的に文字数が多いという御意見もありました。

続きまして、大日本図書を御覧ください。こちらにつきましても、活動という項目がいろんな場面で設定されて、考えさせるようになっていくという御意見があります。また、分かりやすいという意見も一方であったんですけども、難易度が高い問題に取り組む機会が少ないのではないか、数学的思考を深めるという点では少し物足りないのではないかという意見が、こちらではございました。

続いて、学校図書です。全体的な意見ということで、基礎的な計算が多く、それゆえに難易度の高い問題が少ないというような意見が出ました。

続いて、数研出版に移らせていただきます。内容なんですけれども、文字数が少なく、図表等も大きく掲載されているため、学習意欲が低い生徒の学習の動機づけになり得ていいのではないかということ、そして、入試問題として頻出しているような問題を活用問題として記載していたり、章末問題についても、AとBの2種類に分けて習熟度に応じた問題を用意しているというところがいいのではないかと。ただ、問題量が少ないという意見も出ました。

続いて、日本文教出版です。基礎基本の問題は全体的に一定数確保されているということですが、習熟度に応じた問題も、一方では用意されている。また、実社会に照らし合わせた応用問題が少ないという意見がありました。

説明については、以上でございます。

○冨森教育長 ありがとうございます。数学もたくさん候補者があるので、ちょっと見ていただければと思いますけど、見ていただきながら、また御質問がありましたら適宜御質問いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。飯沼委員、お願いします。

○飯沼委員 数学の問題の難易度や問題の数などを挙げられているのですが、どれぐらい各社差があるか教えていただいていいですか。お願いします。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） お答えさせていただきます。

どの者のものも一定の問題数は確保されておりました。一例としまして、1年生の一番最初に習います正負の数のところの章末問題の数で比較してみました。

最も多かったのが啓林館で、啓林館の54ページを開けていただけますでしょうか。54ページから57ページを御覧いただきたいと思えます。難易度2段階に分けられておりまして、問題数もたくさん入れられております。問題数にしますと81問ございました。

反対に、少ない者は日本文教出版、1年生で、54ページ、55ページをお願いします。こちらレベルとしては2段階に分けておられるんですけれども、問題数としますと39問でした。

一番多かった啓林館と少なかった日本文教出版で、約2倍近い問題数の差があったということでした。

○冨森教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問ありませんか。また見ていただきながらで結構ですので、お願いします。辻野委員、お願いします。

○辻野委員 たくさんあるんですけれども、選定委員会からは教育出版と啓林館が推薦された理由をお願いします。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） お答えさせていただきます。

まず、教育出版ですが、先ほど川口教育部次長からも説明がありましたが、教育出版は、文字数が少なく、図表等も多くて、数学が苦手で意欲が低い生徒でも学習の動機づけになり得るのではないかと。章末問題も、A、Bの2種類に分けられており、習熟度に応じた問題が用意されているといった工夫がなされている点であります。

啓林館は、実社会との関連について多く触れられているところでありました。どの者の教科書も、数学と実社会、日常生活の関連については一定触れられているのですが、啓林館は章の最初と章の最後の2度、2回に分けて触れられているという点で、啓林館が優れているのではないかと御意見が出ました。

以上です。

○冨森教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何かございませんでしょうか。

それでは次に、御意見をいただきたいと思えます。

これまで様々な説明がございましたが、何か御意見がございましたらお願いいたします。

太田委員、お願いします。

○太田委員 1つ目のポイントのところ、問題数の確保というところで挙げられていたと思うんですけど、その点で言うと啓林館がいいのではないかなと思えました。それとまた、章末問題、「学びをたしかめよう」というところの例えば55ページの下の部分に、1章の「あしあと」というのが書かれていて、これ、すごくよくできているなと思えました。問題数の確保というのももちろんなんですけど、学んだことを一回振り返ったり、次にどういうことを学びたいかというのをここで一度整理しておくというのは、すごくいいなと思えました。違う出版

社も書かれていたところもあったんですけど、啓林館が見やすくて、フォントも大きくていいんじゃないかなと思いました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんでしょうか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 実社会で数学がどのように使われているのか、数学で勉強したことが社会に出て役に立つのかどうかということを知ることは大変大事なことだと思います。習った理論を使って日常の問題の解決へとつなげられていくような実社会での役立つ数学というのが大事だと思います。

それでいきますと、啓林館が分かりやすいです。例えば1日乗り放題のチケットを買った方がいいのか、1回ずつ買った方がいいのかなど分かりやすく、大変身近にある問題を数学で解決できるということにつなげていけるという点で、啓林館が優れているのかなと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。委員会からは2者の推薦がございましたが、今御意見を伺っておりますと、数学については啓林館の教科書がよいという御意見頂戴しましたので、啓林館の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○**冨森教育長** それでは、数学につきましては、啓林館の教科書を採択したいと思います。

それでは、次は理科の審議に移りたいと思いますので、教科書の入替えをお願いいたします。

理科の意見書は12ページになります。

御準備よろしいでしょうか。

それでは、意見書を御覧いただいたとおり、理科では、啓林館が推薦発行者となっております。選定委員会が啓林館を推薦した理由を、事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長** それでは御説明を申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議論をしました。1つ目は、理科の見方や考え方の育成が大切であり、実験・観察を通じて問題解決の活動を充実させることができるようになっていくか。そして2つ目は、生徒がいかに興味を持つことができるか、興味を持った際に自分から進んで様々な情報にアクセスできるか、情報量や多彩なコンテンツへのアクセスに関しての点についてです。

初めに啓林館の教科書、20ページをお開きいただきたいと思います。章の導入部分や単元内の適所にとすることで上に「つながる学び」というのがございます。このページでいきましたら小5となっておりますけれども、ここに小学5年生で学んだことということで、例えば、花にはおしべやめしべがあるといったように、こういった関連づけの言葉が記載されています。これは、小学校理科や、下位学年の既に習った既学習事項を踏まえて、新しい学習に取り組めるように工夫がされているという御意見です。

また、単元の導入部分においては、生徒の興味が湧きそうな身近な題材を取り上げられており、理科と日常生活との関連づけがしやすい工夫がされていたということがあります。

また、デジタルコンテンツにつきましても、あらゆるページに二次元コードが記載されておりまして、学習で使っております GIGA 端末から様々な資料にアクセスすることができるように工夫がされているのではないかという意見がありました。

続きまして、東京書籍に移らせていただきます。例えば2年生のところで生命分野というのがございました。「蒸散と吸水」の実験のところ、シリコンチューブを用いた新しい実験の掲載があることは良い点であると思われる。ただ、図と文章が複雑に配置されているページが複

数あって、全体的に読みづらいというのがこの出版社でした。

次に、大日本図書に移ります。教科書の本文の内容が少し単調で、興味関心を持たせにくいのではないかという意見がございました。

続いて、学校図書に移らせていただきます。内容としましては、探求という名目で観察実験の方法や結果などがまとめられているものの、コラムのようなページが全体的に少なく、生徒の興味関心をかき立てる要素が少ないのではないかという意見がありました。

続いて、教育出版です。教科書本文や写真、イラストなどの生徒の興味関心を持たせにくいのではないかという意見がありました。

以上でございます。

○冨森教育長 ありがとうございます。こちらも多く教科書があるので、見ていただきながら結構ですので、ただいまの説明を踏まえまして、御質問等ございましたらお願いできればと思います。

辻野委員、お願いします。

○辻野委員 理科の内容を日常生活と関連づけられるかどうかという部分は、子どもたちが学びを自分事と捉える視点としてもとても大切な視点だと思います。先ほど啓林館で、単元の導入部分において、生徒の興味が湧きそうな身近な題材が取り上げられているとおっしゃっていましたが、具体的にはどのページのどのような部分なのでしょう。教えてください。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明させていただきます。啓林館の1年生の134ページを開いていただけますでしょうか。134、135ページ、まず、物質の性質を学ぶ分野ということで、天ぷらを揚げる箸とか、食器の材料など、ふだん生徒が目にするものを具体的に分かりや

すく紹介しているというのがこちらの出版社でした。そして、同じ部分を、例えば教育出版と比較すると、教育出版の70ページと、お手数ですが、東京書籍の73ページを同時に開いていただけますでしょうか。比べていただきたいんですけども、それぞれ台所の写真が掲載されています。生徒が興味を持って、より日常生活とイメージを結びつけやすいのは、見ていただいて比較していただきましたら、啓林館のような記載ではないかということです。

以上です。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何かございませんでしょうか。見ながら結構ですので、お願いします。

太田委員、お願いします。

○太田委員 デジタルコンテンツや二次元コードは、比較的どの出版社にも多く見られたように思うんですけど、中でも特徴的な部分があれば教えていただけますか。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） 回答させていただきます。

おっしゃるとおり、どの出版社のものにも随所に掲載されている傾向があります。特徴的なものと言いますと啓林館だったと思います。啓林館の1年生の58ページをお願いします。左下の部分に「動画でチャレンジ」というところがあります。こちらなんですけれども、開きますと1問1答形式のものではありません。来年度から国の学力調査でもICTを活用した新方式のテストが始まりまして、そこでは動画を通じて問われる複合的な問題が出されるんです。その形にちなんだものがこちらです。この「動画でチャレンジ」という問題がまさにそれに当たるもので、こちらが最も特徴的なものではないかなという意見が出ました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。ちょっと見られますか。ちょっと試してみます。

ありがとうございます。ほかに何か御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に、御意見を伺いたいと思います。何か御意見はございませんでしょうか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 日常生活と理科の関連づけということで、先ほど3者について、台所であるものについての調べ方であるとか、そういうものが同じように記載されているということで説明いただいたんですけれども、啓林館が、白い物質について調べるということで、最後に物質Xは何かというのを突き止めようというような感じで書いていまして、ほかは、白いもので砂糖と食塩と片栗粉ということになっていくんですけれども、日常生活に関連づけている実験なんですけれども、特に生徒たちの興味も引けるし、探求についての指導に役立つのかなと思いますので、啓林館は優れていると思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 情報やコンテンツへのアクセスに関しても、啓林館が、豊富な資料だったり、二次元コードが記載されている点などから比べましても充実しているかなと思いました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

ただいま御意見を伺っておりますと、理科につきましては、啓林館の教科書がよいという御意見頂戴しておりますので、理科につきましては啓林館の教科書を採択してもよろしいですか。

(「異議なし」との声あり)

○**冨森教育長** それでは、理科につきましては、啓林館の教科書を採択したいと思います。

それでは、次は音楽一般の審議に移りたいと思いますので、教科書の入替えをお願いします。

音楽一般は、意見書は13ページを御参照ください。

御準備よろしいでしょうか。

それでは、意見書にございますとおり、音楽一般については、教育芸術社が推薦発行者となっております。選定委員会が教育芸術社を推薦した理由を事務局から説明をお願いいたします。

○**川口教育部次長兼指導課長** 失礼いたします。事務局から御説明申し上げます。

選定委員会では、生徒が主体的に学習を進められる教材が豊富かどうかを中心に議論しました。

まず、教育芸術社を御覧いただきたいんですけれども、「音色」や「リズム」、そして「旋律」

「速度」など、音楽を形づくる要素が各学習内容のページに示されておりまして、生徒たちが学習で何を習得するのか、あらかじめ理解することができる工夫がされていると考えています。そして、1年生の92ページ、93ページをお開きいただきたいんですけれども、音楽的な要素の解説も分かりやすく記載されていました。また、指揮指導が詳しく示されているのもよい点で、二次元コードでアクセスができる情報も豊富でありまして、生徒が主体的に合唱の練習に取り組むことができるという意見がありました。

それでは、続きまして、教育出版の報告をさせていただきます。1年生の8ページ、9ページをお開きいただけますでしょうか。冒頭になるんですけれども、「学習マップ」というのが記載されておりまして、学習する楽曲を比較して、音楽的な要素や特徴を理解しやすくしている点がよいという意見があります。また、二次元コードによる情報へのアクセスもできるとい

うことと、この二次元コードによって演奏を試聴することなどができるというのがありました。ただ、教育芸術社と比較するとアクセスできる情報量というのが若干少なくて、生徒が主体的に学習を進める視点では、少し、比較すると違うのではないかというのが選定委員会からの意見でございます。

以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問等はございませんでしょうか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 二次元コードの情報量の差があるということなんですけれども、その違いを教えてくださいいただけますか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** 回答させていただきます。

どちらの出版社も、2次元コードを読むことで演奏を聞くことはできます。ただ教育芸術社の方が、ほかの合唱のパート別の音源を聞くことができまして、合唱以外の音源を読み取ることができたりします。泉南市は合唱コンクールにすごく熱を入れてやっておりますので、パート別でできることで生徒が主体的に合唱に取り組むことができるのではないかという意見や、自宅に帰って、その音源を聴いて、予習や復習にも使えるのではないかといった意見も出ておりました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんでしょうか。

太田委員、お願いします。

○**太田委員** 先ほどの事務局からの、教育芸術社の説明にあったんですけど、「指揮指導を詳しく示されている」とおっしゃっていましたが、具体的にどのような内容で2者を比較したら違いがあったのでしょうか。

○**冨森教育長** 川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長**

それでは、比較をした形で御説明させていただきます。

まず教育芸術社の1年生の40ページ、41ページをお開きください。こちらの記載を見ていただいたら分かるんですけども、曲想によって指揮を変化させることについて、詳しく明示されているということが確認できます。また、実際の曲が示されておりまして、曲を聴いたり感じ取りながら指揮を行うことができるというのが書かれております。

一方、教育出版の1年生を御覧いただきたいんですけども、25ページをお開きください。こちら、「指揮をしてみよう」ということでの記載がございます。実際の曲は示されていないという点、そして、先ほど御説明させていただきました教育芸術社と比べても、説明の内容が少ないのではないかというのがこちらの比較した点でございます。

以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは御意見をいただきたいと思います。何か御意見はございませんでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 指揮の部分で説明があったように、より詳しい情報や実際の曲に合わせて生徒が指揮を行うように設定されている点では、教

育芸術社の内容がよかったなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。

辻野委員、お願いいたします。

○辻野委員 二次元コードでの情報のアクセスということで、教育芸術社が、曲だけじゃなくパート別に音源を聞くことができるということで、生徒たちの目的に合った情報のアクセスができるのかなと感じましたので、いいかなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。

ただいま御意見を伺っておりますと、音楽一般としましては、教育芸術社の教科書がよいという御意見が多いようですので、教育芸術社の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○冨森教育長 それでは、音楽一般については、教育芸術社の教科書を採択したいと思います。

それでは、次に、音楽器楽の審議に移りたいと思いますので、教科書の入替えをお願いいたします。

音楽器楽の意見書は 14 ページを御確認ください。御準備よろしいでしょうか。

意見書を御覧いただいたとおり、音楽器楽については、教育芸術社が推薦発行者となっております。選定委員会が教育芸術社を推薦した理由を事務局からお願いいたします。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明申し上げます。

選定委員会では、音楽器楽につきましても、一般と同じように、生徒が主体的に学習を進められる教材が豊富かどうかを中心に議論しました。

初めに、教育芸術社について御説明させていただきます。イラストや写真を用いて基礎的・

基本的な奏法を説明しており、生徒への適切な配慮が工夫されている。また、「学びのコンパス」ということで、17 ページ、お開きいただきたいと思います。中ほどに、「学びのコンパス」ということが記載されております。あわせて、55 ページも同じような内容で、「学びのコンパス」という、楽曲の構成を捉えようということ記載されています。よって、主体的、対話的で深い学びにつながる活動が取り入れられているということでございます。

さらに、音楽を合わせるコツということで、15 ページにお戻りいただきたいんですけども、Q&A という形であつたりとか、さらに 18 ページ、御覧ください。Q&A、Qとして、「低い音はどうしたらきれいに出来ますか」。A というような形で記載があります。生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫もされていて、生徒にとって親しみやすい教材も取り入れられているという意見がございました。

次に、教育出版に移らせていただきます。基礎的・基本的な奏法が身につけられるように示されているということ、また「表現を調べてみよう」ということで、30 ページをお開きいただきたいんですけども、実際の操作している写真が入っておりまして、分かりやすいということで、この点、進んで学び合う活動が示されているというような意見がありました。

以上でございます。

○冨森教育長 それでは、ただいまの説明に対して、御質問等ございませんでしょうか。

辻野委員、お願いいたします。

○辻野委員 先ほどの「学びのコンパス」を使うと、どのような主体的な学びになるのか教えていただきたいと思います。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） 回答させてい

たきます。

それでは、17 ページをお願いいたします。真ん中から下に「学びのコンパス」というところがあります。教科書にはアルトリコーダーの使い方が載っております。さらに、QR コードを読んでもらうと、アルトリコーダーと加えてソプラノリコーダーの演奏についても学ぶことができます。そういった点で、比較できることと、あとは、もちろん QR コードがあることで、自宅でも個人で練習するなど、主体的な学びができるのではないかなというふうな意見が出ました。また、55 ページをお願いいたします。こちらのページは曲の構想を捉えようというページで、ここで話し合うポイント、設定されています。このように、対話的な学びにつながるページも設定されているので、いいのかなという意見が出ました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問ございませんでしょうか。太田委員、お願いいたします。

○**太田委員** 主体的に学べるという点で教育芸術社を推薦されていますけれど、もう少し具体的に教えてください。

阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** 15 ページをお願いします。音を合わせるときのコツというところがあります。ここはイラストつきでポイントが詳しく書かれておるのですが、低い音、高い音の出し方の Q&A が載っていることや、コツの使い分けといいますか、低い音、高い音、どのように出していけばいいのかとかといった学習のやり方、仕掛けが加えられているところが、主体的に学べる点かなという意見が出ておりました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんでしょうか。よ

ろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見はございませんでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 「学びのコンパス」とか、Q&A など、生徒が主体的に学べるように設定されている点では、教育芸術社の内容がよかったなと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに御意見はございませんか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 曲の構成について話し合うポイントが示されているということ、55 ページ、あとは、15 ページで、音を合わせるときのコツというようなものも挙がっていきまして、対話しながら学んでいくということ、そして実際に演奏、合奏する際に大変役立つのかなと思います。教育芸術社の内容がよいと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

ただいまの御意見をお伺いしますと、音楽器楽としましては、教育芸術社の教科書がよいという御意見頂戴しておりますので、教育芸術社の教科書を採択してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○**冨森教育長** それでは、音楽器楽については、教育芸術社の教科書を採択いたします。

次は、美術の審議に移りますので、教科書の入替えをお願いいたします。

美術の意見書は 15 ページを御参照ください。御準備よろしいでしょうか。

それでは、美術では、意見書にございますとおり光村図書が推薦発行者となっております。選定委員会が光村図書を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明いたします。

選定委員会では、教科の特性上、描くことや造形及び鑑賞など、幅広い活動を通じて豊かな情操を養うことを目標としているため、子どもたちの感性をくすぐることができるような色彩、豊かな作品や、興味関心を引く構成となっているかどうかを中心に議論いたしました。

光村図書の1年生、20ページから21ページにかけて、右下のところを御覧ください。キャラクターが作品についての疑問であるとか着目したポイントが、問いかけとして書かれております。これが生徒の興味関心を引きやすい構成となっているという意見がありました。また、2年生、3年生の教材も見ていただきたいんですけども、教科書が1冊にまとまっています。この2年、3年一緒になっているということが、生徒にとって扱いやすくなっているという意見が挙げられております。

続いて、開隆堂になります。2年生、3年生の内容は豊富で、授業での取扱いがしやすそうだが、1年生の内容として、木材を扱う内容やクラスメイトを描く内容となり、課題としては少し難しいのではないかなという意見がございました。

続いて、日本文教出版を御覧ください。学びを支える資料は1年生の教科書にしかないということが挙げられまして、他学年での使用というのはちょっと難しいのではないかなという意見がありました。

以上でございます。

○冨森教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問等ございませんでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○飯沼委員 開隆堂の1、2年生の内容として、木材を扱う内容や、クラスメイトを描く内容と

なり、課題として難しいと考えられるとおっしゃられていましたが、もう少し詳しく教えていただけますか。

○冨森教育長 川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 まず、光村図書、開隆堂、日本文教出版、3者とも、クラスメイトや友達などを描く題材、また木材を扱う表現については全て扱っておられます。用具を使うところの難しさや提示されている作品を見た印象として難しく感じるものではないとしています。また、「友達」を描くということが、多感な時期の生徒にとって難しく感じられるというところもありました。

ただ、3者とも、二次元コードで動画や作品を見ることができまして、工夫されているということがあります。例えば、光村図書の教科書を御覧いただきたいんですけども、22ページ、お開きいただけますでしょうか。ここにありますように、全国の生徒の作品を多数見ることができるということがあります。また参考にすることができる点が、長所としても考えられるところがあります。別冊というのもありまして、用具の使い方が詳しくされる点も評価ができると考えます。

以上でございます。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。

湊委員、お願いいたします。

○湊委員 豊かな情操を養うことを目標として選定されているということですけども、その点について、3者は何か特徴はありますか。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） では、私から御説明いたします。

例えば、光村図書の1年生の40ページを開けていただけますか。「風神雷神」なんですけれども、このように作品の写真が非常に鮮やかで、3人の絵師の方の作品を対比することができて、絵師による描き方の絶妙な違いを感じ取ることができるような構想になっているという点が挙げられています。

開隆堂と日本文教出版においても、同様に「風神雷神」の図は取り扱っておられるのですが、作品を比べるという点においては、ございませんでした。

もう一点ありまして、3者ともSDGsの観点で記載されているところも共通しておるのですが、光村図書においては、2年生、3年生の教科書の目次のページにおいて非常に詳しく記載があって、学習指導要領の目標にもありますように、美術が、描くことや造形及び鑑賞を通じて、生活や社会の中で自身が伝えたいことを表現したり感じたりすることができる教科であることを言語化し、より深く生徒が学ぶきっかけになると考えております。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に御意見をいただきたいと思えます。何か御意見はございませんでしょうか。

辻野委員、お願いします。

○**辻野委員** 光村図書の推薦にありますように、SDGsやピカソの「ゲルニカ」は、平和の尊さも考えるようにつくられているなと思います。これらのことから、美術が描くことや作ることだけでなく、自分が伝えたいことを表現すればいいのだと生徒が学ぶきっかけになればいいなというふうに思いますので、すばらしいと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんでしょうか。

太田委員、お願いします。

○**太田委員** 光村図書は、別冊の資料が豊富であるということで、生徒や教員にとって学びが支えられるメリットが多くあるんじゃないかなと考えています。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

これまでの御意見をお伺いしますと、美術としましては、光村図書の教科書がよいという御意見いただいておりますので、光村図書の教科書を採用してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○**冨森教育長** それでは、美術といたしましては、光村図書の教科書を採用したいと思います。

それでは、次に保健体育の審議に移りたいと思えますので、教科書の入替えをお願いいたします。

保健体育の意見書は16ページを御参照ください。御準備よろしいでしょうか。

それでは、意見書のとおり、保健体育では、大修館が推薦発行者となっております。選定委員会が大修館を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長** 御説明を申し上げます。

選定委員会で、次の2つのポイントを中心に議論いたしました。1つ目は、生徒が主体的に学習できる、生徒同士が対話するなどの活動ができ、学びが深まるようになっているか。2つ目は、生徒自身やその家族の健康を考えられるものとなっているかです。

それでは初めに、大修館を御覧いただきたいと思えます。見開き1ページで1時間の構成を徹底しているというところで、恐れ入ります、8ページをお開きください。見ていただきましたら、学習者も指導者も見通しを持って学習を

進められるというふうに、これを見て考えられます。また、「コラム」と称して現代社会の課題に対し資料が豊富になっているというところが挙げられます。また、14 ページにお進みいただきまして、「章のまとめ」ということになっておりまして、こちらを見ますと、知識や技能、そして思考・判断・表現、また、主体的に学習に取り組む態度の3観点についてまとめられているというのが分かります。よって評価の際の参考にすることができるという意見がありました。

次に、東京書籍に移らせていただきます。巻末のスキルブックというのがございまして、個人での学習に適しているということが考えられます。しかし、「ミニ知識」や「情報サブリ」、また「コラム」などの資料が他者に比べて少なくなっているという御意見がございました。

次に、大日本図書に移らせていただきます。見開き1ページになっておりまして、左側に説明文、右側に資料という工夫がされておりますが、本文と資料が少し離れていることで、本文と資料を照らし合わせづらいという意見がありました。

続いて、学研につきましては、他者と比べて資料等が少なく、説明文が多くなっています。また、生徒への視覚支援が難しくなるというような意見がありました。

以上でございます。

○**冨森教育長** それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問はございませんでしょうか。辻野委員、お願いいたします。

○**辻野委員** 大修館で選定いただいておりますが、4者とも見開き1ページで1時間の構成となっているんですけれども、他者との違いというのはどんなところでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** では、私から御説明させていただきます。

大修館は、見開き1ページスタイルを徹底されているというところです。例えばですが、36ページを御覧いただけますでしょうか。「生殖機能の成熟（1）（2）」となっておるんですが、他者では、ここを一気にぶち抜いて4ページで行われておりますが、大修館は、見開き2ページの構成でしっかり分けられているということでした。本当にちょっとしたことですが、教員が指導するに当たっては、1時間で何を教えるか、明確でしっかりなっているという、このような工夫が現場は欲しいというような意見がございました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見がある方はいらっしゃいませんか。

太田委員、お願いします。

○**太田委員** 確かに大修館は、例えば49ページの「自己形成」というところでもコラムで藤井聡太さんを実際取り上げていらっしゃいます。生徒の興味や関心を意識した資料を用意しているように感じました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 大修館は、60ページを見ても分かるように、「章のまとめ」は、ほかの出版社もあるんですけれども、観点ごとに分けられているのはこの大修館だけかなと思います。これでしたら生徒も学習しやすいんじゃないかなと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

ただいまの御意見を伺っておりますと、保健体育としましては、大修館書店の教科書がよいという御意見が多いようですので、大修館書店の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○**冨森教育長** それでは、保健体育につきましては、大修館書店の教科書を採択いたします。

次に、技術の審議に移りますので、教科書の入替えをお願いいたします。

技術の意見書は17ページを御参照ください。御準備よろしいでしょうか。

意見書にございますとおり、技術では、開隆堂の1者が推薦発行者となっております。選定委員会が開隆堂を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○**川口教育部次長兼指導課長** 御説明申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議論いたしました。1つ目は、「実践的・体験的」な活動に生徒が主体的に取り組めるような工夫がされているか。2つ目は、グローバル化が進む中で、科学技術に対する知識・技能を確実に習得できるような工夫がされているかであります。

初めに、開隆堂につきましては、他の2者と同じ単元で比較するときに、生徒が主体的に取り組めるような工夫がされていること。また、二次元コードなどのデジタルコンテンツも他者に比べて優れており、個別最適な学びに適しているという意見がございました。

続きまして、東京書籍になります。制作の基礎技能がイラストを加えて詳細に記載されており、生徒に分かりやすいと考えられます。また、文字が小さいため読みづらさも感じられます。さらに、プログラミングの作成場面では、他者に比べて写真等が少なく、生徒自身で学習

を進めるのが難しいのではないかというのが御意見でございました。

次に、教育図書です。こちらでは「技ビト」で職人さんを紹介しております、職業と生活に関連づける工夫がされておりました。しかし、製図が難しく、他者と比べるとデジタルコンテンツが少なくなっているという御意見がありました。

以上でございます。

○**冨森教育長** それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問はございませんでしょうか。太田委員、お願いします。

○**太田委員** 開隆堂が主体的に取り組める工夫があるとおっしゃっていただいたんですけど、具体的にはどの場面でそのような工夫が見られるのでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** それでは、答えさせていただきます。

194ページを御覧ください。こちら、非常時に使えるような防災用のライトについて書かれておるんですが、ここは本当に単純にライトを作ろうというのではなくて、何のために作成するのかという目的が明確になされております。このように、目的を明確化することで生徒の主体性を引き出すことができるのではないかと考えています。あと、「防災」の観点を付け加えているという点も非常に重要ではないかという意見がありました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんでしょうか。湊委員、お願いします。

○**湊委員** 先ほどの説明で、開隆堂はデジタルコンテンツで他者に比べて優れておるという

ことだったんですけれども、具体的にはどういうことか教えていただけますか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** 私から御説明させていただきます。

それでは、開隆堂の 53 ページを開けていただけますでしょうか。一番上に二次元コードがあるんですが、もしよろしければタブレットでそちらを開いていただければと思います。

中央が赤色のページが、赤とピンクのページが出てくると思うんですが、学習課題というところを押していただければ動画が出てきます。

このように動画で説明があります。あと、ワークシートや振り返りシートなどもあります。このように、生徒自身で学びが進められるように設定されているというところが優れているのではないかという意見がありました。これを残りの 2 者と比べさせていただくと、東京書籍は動画がなくてイラストのみになっており、教育図書は、2 者と比べるとさらに少なくなっているということが選定委員会で出ておりました。こういうのを同じ単元で比較したときに、コンテンツ数が、開隆堂は 39 個あって、東京書籍は 31 個、教育図書は 12 個と、コンテンツの数でも開隆堂が優れているのではないかという意見がありました。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見はございませんか。

辻野委員、お願いします。

○**辻野委員** やはり推薦いただいている開隆堂の教科書を拝見させていただきまして、62 ページにあります「問題の解決の手順」というのを見ていても、何のために、誰のために制作す

るのかというのが分かりやすく書かれていて、完成までの流れも分かりやすく示されているので、非常に使いやすいんじゃないかなと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 開隆堂の 243 ページのプログラミング作成のところですが、手順も他者に比べてシンプルで分かりやすく示されているなと感じました。

○**冨森教育長** ありがとうございます。

ここまでの御意見をお伺いしますと、技術としては、開隆堂の教科書がよいという御意見をいただきましたので、開隆堂の教科書を採択してもよろしいですか。

（「異議なし」との声あり）

○**冨森教育長** それでは、技術につきましては、開隆堂の教科書を採択いたします。

続きまして、家庭に移りたいと思います。教科書の入替えをお願いいたします。

意見書 18 ページも御準備をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、意見書を御覧いただきましたとおり、家庭については開隆堂の 1 者が推薦発行者となっております。選定委員会が開隆堂を推薦した理由を事務局から御説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課。

○**川口教育部次長兼指導課長** 御説明を申し上げます。

選定委員会で、2 つのポイントを中心に議論してございます。1 つ目は、学習指導要領に応じた家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・

環境、この3つの構成で、ガイダンスと項目が結びついているかというところでございます。2つ目は、実践的・体験的な活動を通じた授業が教科書を通じて行うことができるかということで議論をいたしました。

まず、開隆堂について御説明させていただきます。学習指導要領に応じた構成ということになっておりまして、こちらの内容につきまして、先ほど申しあげました家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境という構成で内容が構成されています。内容だけを覚えるのではなくて、実体験で体験し、実生活に生かせる項目もありました。他教科との連携もしやすく、開隆堂は、1日に取りたい食品と分量を、例えば108ページから113ページにかけてになるんですけども、実寸大の写真を掲載することによりまして、より実践的で体験的な感覚を生徒に持たせる工夫を行っているということが意見でございました。

続きまして、東京書籍になります。こちらの構成は、学習指導要領で示しております順番ではなく、衣食住の生活から始まって、消費生活・環境、そして家族・家庭生活という構成でつくられております。なおかつ、衣食住の生活の中でも、食・衣・住という形の並びに変えられておりまして、他者と比べると学習の見通しが少し立ちづらいのではないかという意見がございました。

教育図書になります。学習指導要領に応じた順番になっているんですけども、教科書自体の説明が短く、写真やイラストが補っているという点から、授業では説明がしづらいのではないかというのが意見でございます。

以上でございます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問等ございませんでしょうか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 今の説明では、東京書籍だけが学習指導要領に準じた構成でなくて、開隆堂と教育図書は学習指導要領に準じた構成になっているということですが、それで両者とも学習の見通しが成り立ちやすいんだろうと思いますが、この両者で何か違いはあるんでしょうか。

○**冨森教育長** 阪上指導課参事（指導担当）。

○**阪上指導課参事（指導担当）** では、私からお答えさせていただきます。

この2者のガイダンスについて比較をさせていただきました。それでは、開隆堂の2ページから15ページ、教育図書の1ページから13ページを御覧になってください。比較をさせていただきますと思います。

開隆堂は、目次のすぐ後ろ側に教科書を活用するためのガイダンスが掲載されていて、家庭分野をより実践的で体験的に学習していく中で、大切なところが一目で分かるように明確に掲載されているというのが特徴です。

教育図書は、写真や字が多くて大切なところが一目では分かりにくいのではないかという意見が出ました。これが大きな点でございます。

あとは、教育図書の43ページ、62ページ、213ページが挙げられるのですが、特にこの3ページの説明が少なく、写真やイラストで補っている点が非常に多く、教員が授業をする際にはかなりの補足説明が必要になるのではないかという意見が出ました。

以上になります。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○**飯沼委員** 1日に取りたい食品等の分量や食品群に関しては、どの出版社においても実物

大の写真が掲載されていますが、3者においてどのような違いがあるか教えていただいていますか。お願いします。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） それでは、私から御説明させていただきます。

確かに3者ともに実物大の写真は掲載されておりました。比較させていただきたいと思います。

それではまず1点目、開隆堂、108ページから113ページが食品のページになります。すごくすっきりとした掲載がされています。

次に、教育図書で言いますと、88ページから折り込み⑥というページまでを御覧ください。ここは非常に多くの食材を掲載してくださっているのですが、どうしても情報量が多くなってしまっているのではないかという意見が出ました。

続いて、東京書籍41ページから47ページが食品のページになります。この中で言いますと、42ページが小さくて見づらいという意見と、以降のページが、逆に食材の写真が大き過ぎるゆえに見づらいのではないかという意見が出ておりました。

そのため、3者比較したときに、開隆堂の108ページから113ページが非常に見やすいのではないかという意見でまとまっております。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに御質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見はございませんでしょうか。

辻野委員、お願いします。

○辻野委員 学習指導要領にあるとおり、開隆堂の教科書は、A、B、Cの順に単元が配置されているということ、バランスよくガイダンス

が書かれていることは、生徒が学習を進める上でとても大切だと思いますので、よろしいかと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。よろしいでしょうか。

ただいま開隆堂の教科書がよいのではないかという御意見頂戴しましたが、家庭につきましては開隆堂の教科書を採択してもよろしいですか。

（「異議なし」との声あり）

○冨森教育長 それでは、家庭につきましては、開隆堂の教科書を採択いたします。

それでは、次に外国語の審議に移りますので、教科書の入替えをお願いいたします。

外国語も発行者が多いので、意見書は19～20ページにわたっております。御確認をお願いいたします。御準備よろしいでしょうか。

それでは、意見書御覧のとおり、外国語につきましては光村図書の1者が推薦発行者となっております。選定委員会が光村図書を推薦した理由を事務局から説明をお願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明申し上げます。

選定委員会では、2つのポイントを中心に議論いたしました。1つ目は、英語の基礎・基本を、聞く、読む、書く、話す4領域にわたってまんべんなく身につけながら、英語を使う力が身につくかどうかという点。2つ目は、生徒が主体的に学習できる生徒同士が対話するなどの活動ができ、学びが深まるようになっているかという点でございます。

初めに、この点を踏まえまして光村図書から説明させていただきます。光村図書につきましては、本文の内容、読み物教材としての視点、題材がよい。特に、3年生の修学旅行を意識し

た教材が深い内容でよかったという御意見。そして、ページごとに二次元コードが用意されており、音声や動画などで楽しく学べるようになっている。授業でも家でも自由にアクセスできる主体的な学びにつながると思われるという御意見。そして、構成でも見開きページを関連づけて、繰り返し活動を入れて定着を図る工夫をしているということです。さらに、単元として「Goal」というのでは、それらを活用して目標に応じた言語活動に取り組むように設定されているという意見がございました。

次に、東京書籍について御説明させていただきます。「Preview」動画による導入が、英語が苦手な生徒にとって聞き取りのレベルが難しく、大きな壁になるかもしれないという御意見。そして、二次元コードから入るサイトは整理されていて扱いやすい。本文のリーディングも文字も大きく、読むにつれて文字が赤くなっているという御意見。次に、単元間の「Unit Activity」では「10年後の自分へのメッセージ」、そして「Real Life English」というところでは、ラグビー選手へのインタビューを取り上げるなど、興味深い内容があったという御意見がございました。

続きまして、開隆堂について御説明します。導入の部分でマンガによる会話が示されておりまして、生徒は身近な話題を使って新しい表現を取り入れ、コミュニケーション活動ができるようになっております。次に、基礎基本が身につく、自ら学ぶという観点では、十分工夫されていると思う。見開き部分ページで、左の本文と、右の理解を促す活動、自己表現の補助表現が示されており、自分でもやってみようという意欲が湧くようになっている。そして、単元の新出文法が最初に多く、逆に、順に進めると、文法の授業に少し陥りやすいという御意見がございました。

次に、三省堂です。こちらでは「Scene」の導入イラスト、二次元コードから見られるアニメーションの内容が少し分かりにくく、「Check」

の文のつながりが指導しにくそうであると。また、「Check」の文法解説動画の位置づけが分かりにくい。相対的に二次元コード動画の連携が難しいという御意見がありました。あわせて、二次元コードの「読む」動画では、読んでいる文の文字色が赤くなっていくので分かりやすい面もあるが、全体的に複雑で扱いにくいということでした。全体的に絵やイラストも小さくて見にくいという御意見がございました。

続きまして、教育出版でございます。意見としましては、本文のテーマは、「One world」という名前のおり現代社会のグローバルな時事問題を取り上げ、興味を引く生徒がいるかもしれないが、やや難しい問題がある。二次元コードから読む「まなびリンク」の本文の音声は、音声のみで、右ページの音声はなしで、やや不親切な作りであると。また、書き込みコーナー用の記入シートなどは、ダウンロードができるようになっているという御意見。「Tips for Speaking」など、学び方のちょっとしたコツを挙げて1ページにまとめられているという意見がございました。

最後に、啓林館です。ビートルズなどの有名な歌手の英語の歌が取り上げられているなど工夫が見られるという御意見、そして、本文で取り扱われているテーマが外国の学校の行事等で、日本の生徒になじみのないものだったり、身近なものが少なかったりして、学びに向かないのではないかと。そして、Targetの解説動画が丁寧で分かりやすいが、左ページの「Scene」と右ページのつながりが少し分かりにくいという御意見がありました。

以上でございます。

○富森教育長 それでは、ただいまの説明に対して、御質問はございませんでしょうか。ちょっと多いので、検討いただければと思います。

いかがでしょうか。

飯沼委員、お願いします。

○飯沼委員 すみません。光村図書の本文の内容についてなんですが、読み物の教材の視点や題材がいいところということについて、もう少し詳しく説明していただけますでしょうか。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） それでは、私から御説明させていただきます。

光村図書の2年生の教科書 10 ページ、こちらは4月当初のクラス替えの様子。次に、19 ページ、バスケットボール大会について。31 ページ、夏休みの計画、夏休みの過ごし方について。3年生の教科書 29 ページを御覧いただけますでしょうか。修学旅行について。大体これは5月中旬辺りに履修する時期に重ねて組まれており、非常に生徒にとって学校の日常的な流れとリンクするように組まれております。ストーリー的にも思春期の希望や悩みと、そういう生徒を引きつけるようなストーリーにもなっていて、非常に身近に感じやすいものではないかという意見が出ておりました。

以上です。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。

辻野委員、お願いします。

○辻野委員 光村図書の生徒たちが惹かれる内容ということは分かりましたけれども、「レッツトーク」は、いいと思います。英語の力がつくという点で整理するとどんな感じでしょうか。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）、お願いします。

○阪上指導課参事（指導担当） 引き続き、2年生の教科書で説明させていただこうと思

います。2年生、10 ページをお願いいたします。

まず、この10 ページ、「Listen & read」ということで、本文を読んで学習した内容や文法をここで学びます。

10 ページの本文を読んだ後、11 ページに行き、再度確認する活動やクイズがあり、その下に「Speak」「Write」というところが用意されており、本文の繰り返し練習ができるようになっております。

同じような構成で12 ページ、13 ページもつくられており、16 ページ、章の最後に行きますと「Goal」とに設定されておりまして、ここで自分で日記をまとめるなど、うまく構成されているという意見がありました。

あとは、137 ページを開けていただくと、「英語の学び方ガイド」というものがありまして、次のページから Q&A という形で始まります。ここで領域ごとに詳しい勉強方法が記されておりまして、生徒の自主的な勉強の助けになるのではという意見が出ました。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見がある方はいらっしゃいませんか。

湊委員、お願いいたします。

○湊委員 啓林館や教育出版の本文でも現代の世界的な話題が扱われていて、生徒たちが知っておくべき内容なんですけれども、それは社会科や理科とか、総合的な学習の時間でも扱われていると思っています。中学生が英語で学ぶのはちょっと難しいのかなと思います。光村図書のような、生徒が読みたくなる内容のほうがよいのかなと思いました。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんでしょうか。

太田委員、お願いいたします。

○太田委員 生徒の学びたくなる意欲を引き出すストーリーを展開している光村図書がいいと思います。文法とか単語というのはどの教科書でもそれなりに保障されていると思います。生徒がわくわくしながら学びを進めるような教科書を子どもたちに提供したいなと思っています。

○冨森教育長 ありがとうございます。

ここまでの御意見をお伺いいたしますと、外国語としましては、光村図書の教科書がよいという御意見いただいておりますので、外国語については光村図書の教科書を採択してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○冨森教育長 それでは、外国語につきましては、光村図書の教科書を採択いたします。

それでは、次の道徳の審議に移りますので、教科書の入替えをお願いいたします。

とてもたくさん図書があるんですけれども、意見書は21ページを御参照ください。

御準備よろしいでしょうか。

意見書を見ていただきますとおり、道徳では、日本文教出版の1者が推薦発行者となっております。選定委員会が日本文教出版を推薦した理由を事務局から御説明お願いいたします。

川口教育部次長兼指導課長。

○川口教育部次長兼指導課長 御説明を申し上げます。

選定委員会では、次の2つのポイントを中心に議論をいたしました。1つ目は、自己を見つめ、生き方について考える学習を進めるのに適しているか。そして2つ目は、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることに適しているか。この2点について議論いたしました。

初めに、日本文教出版の2ページをお開きく

ださい。例えば、5、6、13、14、28、29と、「いじめと向き合う」ということでテーマがあり、学期ごとに初めに取り扱っていることや、発行者の中でも唯一「道徳ノート」というものが附属されておりました。これを使うことにより、生徒自身が自身の学びを振り返りやすくなっているということを意見としていただいています。そして、発問内容が、生徒が主体的、対話的に考えられるものになっているのではないかという意見もありました。

次に、東京書籍です。各題材の最後に「考えよう」「見つめよう」が示されているという点があります。ただ、その内容が抽象的で、もう少し具体性が必要ではないかという意見がございました。

次に、教育出版を御覧ください。各項目の最初に中心発問が端的に示されております。何について学習するかが分かりやすく記載されているという意見がございました。

続きまして、光村図書を御覧ください。1年間の学校生活に寄り添うように単元が配列されているという御意見がございました。

次に、学研を御覧ください。内容としては、巻末に内容項目の一覧が示されておりますが、他教科との関連が示されていないという点があります。また、SGDs関連であるとか、教育基本法関連の教材を重点的に取り扱っているという御意見がございました。

次に、あかつき書店を御覧ください。内容としましては、役割演技や話し合いなどが取り入れられて、生徒がいろいろな立場で想像したり考えたりできるような問いが設定されているという御意見がございました。

次に、日本教科書を御覧ください。人権問題を考える課題が少し少ないのではないかという意見がありました。

説明については、以上となります。

○冨森教育長 それでは、ただいまの説明に対しまして、御質問はございませんでしょうか。

こちらにもたくさんの種類がありますので、ちょっと見ていただいてからと思いますが、いかがでしょうか。

辻野委員、お願いします。

○辻野委員 先ほどの説明で、東京書籍の発問が抽象的だということですが、どの辺りでそう感じられたのか教えていただきたいなと思います。

○冨森教育長 阪上指導課参事（指導担当）。

○阪上指導課参事（指導担当） それでは、東京書籍の1年生、62ページと日本文教出版の1年生、99ページを比較させていただこうと思います。

どちらも内容項目としましては「思いやり」のところになるんですが、東京書籍 62 ページの「見つめよう」のところを見ていただくと、「人を思いやるとは、どういうことだろう」といった質問項目に対して、日本文教出版の場合、「社会の中で他者に思いやりを示すには、どんな気持ちや考えが必要だろう」と、同じ「思いやり」の内容項目ですが、発問の具体性が全然違うという意見が出ておりました。「誰に」というのが示されていることで、生徒の考えが非常に整理されるのではないかとということで、比較の意見がまとまっておりました。

以上です。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。

ほかに何か御質問はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見をいただきたいと思います。何か御意見はございませんでしょうか。

太田委員、お願いします。

○太田委員 日本文教出版には道徳ノートというものが附属されているので自身の学びを蓄積できるかなと思います。

○冨森教育長 ありがとうございます。ほかに何か御意見はございませんか。よろしいでしょうか。

ただいま日本文教出版の教科書がよいという御意見いただきましたが、道徳については日本文教出版の教科書を採択してもよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○冨森教育長 それでは、道徳におきましては、日本文教出版の教科書を採択いたします。

それでは、全ての教科書の採択が終わりましたので、以上で、日程第5、議案第1号についての審議を終了いたします。

それでは、17時10分ぐらいまで休憩したいと思います。よろしいでしょうか。それでは休憩に入りたいと思います。

（休 憩 16時57分）

（再 開 17時10分）

○冨森教育長 それでは、御準備よろしいでしょうか。

それでは、休憩を解いて、再開したいと思います。

次に、日程第6、議案第2号、令和6年度大阪府泉南市一般会計補正予算要求（教育委員会所管分）についてを議題といたします。

本議案の説明を、水田教育総務課長からお願いします。

○水田教育総務課長 それでは、議案第2号、令和6年度大阪府泉南市一般会計補正予算（教育委員会所管分）について御説明いたします。提案理由として、令和6年第3回市議会定例会において、補正予算を要求するに当たり、泉南市教育委員会の事務委任等に関する規則第2条第1項第6号の規定により提案するものでございます。

1枚めくっていただきまして、2ページ、今回の補正予算の内容といたしまして、教育総務課5,076万7,000円、教育サービス課分歳入といたしましてマイナスの67万2,000円、歳出、マイナスの1,560万7,000円になってございます。こちらの分につきましては、令和7年1月から令和7年3月まで学校給食の無償化に伴うものの補正予算になります。

3ページ、歳入といたしまして、教育サービス課の分で小学校費の補助金、マイナスの48万円、特別支援教育就学奨励費補助金の減額。2につきましてはその中学校の分の減額。

歳出といたしまして、教育総務課所管分、小学校の分の物価高騰対策支援事業といたしまして3,452万6,000円、その同じく中学校費分で1,624万1,000円。それから、教育サービス課分で小学校の就学援助事業、これがマイナスの1,067万8,000円、同じく中学校分が492万9,000円を補正予算として要求するものです。以上です。

○冨森教育長 ただいまの説明に対し、御質問・御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、以上で質問・意見等を終了し、議案第2号を採決いたします。

お諮りいたします。本議案を承認することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○冨森教育長 全員異議なしと認めます。よって議案第2号は承認することに決定いたしました。

次に、日程第7、議案第3号、泉南市立学校におけるいじめ事案に係る重大事態についてを議題といたします。

本議案につきましては、個人情報を含む案件であるため、泉南市教育委員会会議規則第8条第1項の規定により、秘密会として議論することを発議します。

議論を公開しない秘密会にするには、泉南市教育委員会会議規則第8条第1項の規定により、教育長または委員の発議により、出席者の3分の2以上の多数の議決を要し、かつ、同条第2項により、討論を行わないでその可否を決しなければならないことと規定されております。

よって直ちに本件を採決いたします。

お諮りいたします。議案第3号、泉南市立学校におけるいじめ事案に係る重大事態については、公開しない秘密会により議論することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○冨森教育長 全員異議なしと認めます。よって議案第3号は、秘密会により議論することに決定いたしました。

(ここから秘密会)

[Redacted content]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

(ここまで秘密会)

○**冨森教育長** 次に、日程第4、報告第2号、事務局報告を議題といたします。

泉南市いじめ重大事態に係る調査結果の公表に関するガイドラインの策定について、川口教育部次長兼指導課長から報告がございます。

○**川口教育部次長兼指導課長** 報告第2号、事務局報告の(1)、泉南市いじめ重大事態に係る調査結果の公表に関するガイドラインにつきまして御説明を申し上げます。

資料の1. ガイドラインの趣旨でございます。

泉南市いじめ重大事態に係る調査結果の公表に関するガイドラインについて、泉南市立学校において、いじめ防止対策推進法の第28条第1項に定める重大事態が発生し、泉南市いじめ問題対策連絡協議会等条例に規定する泉南市いじめ問題対策委員会において調査を行った場合に、文科省の「いじめ重大事態の調査に関するガイドライン」にのっとりまして、調査結果を公表するに当たり、今回必要な事項を定めるということで御提案させていただいております。

2. 公表についての基本方針を御覧ください。

基本姿勢といたしましては、文科省のガイドラインでは、「調査結果を公表するか否かは、学

校の設置者、そして学校として事案の内容や重大性、被害児童生徒・保護者の意向、公表した場合の児童生徒への影響等を総合的に勘案して適切に判断することとされておりまして、特段の支障がない場合につきましては公表することが望ましい」というのが基本的な考え方となっております。

次に、(2)の公表、そして目的と懸念についてでございます。

公表の意義と懸念としまして、調査結果を公表する意義、そして公表することにより関係者への弊害として次の点が挙げられるということで、公表の意義としては次の1から4が挙げられております。

次に、下段の公表の懸念点ということで、2ページに当たるんですけれども、1から4までが考えられるということで記載をされております。

2ページにお進みください。(3)です。泉南市教育委員会の、このガイドラインを策定した姿勢、基本的な考え方ということで、ここにまとめてございます。

泉南市教育委員会は、基本として本ガイドラインにのっとり公表の可否を決定することです。基本的には、公表の意義、懸念される弊害、そして被害児童生徒・保護者等の公表の意向を総合的に勘案し、調査結果を公表するか否かの判断をすることとしています。この場合において一番重視するということで、挙げさせていただいているんですけれども、被害者が公表を望まないときは、原則として調査結果の公表を行わないとしております。これは、あくまでも被害者の意向を重視するという意味でこのガイドラインを定めたということでございます。

そして、今後、公表の状況やいじめに関する社会的評価等を踏まえ、必要に応じて本ガイドラインの見直しも図りながら、柔軟に対応することとしております。国でも重大事態のガイドラインの改正作業に入っておりますので、改訂さ

れましたら直ちに対応していきたいということで記載しております。

次に、3、公表に対する意向確認ということでございますが、公表について、先ほど申し上げました意義・弊害、市教育委員会の方針を説明し、被害者側に公表の意向を確認します。そして、保護者等の意向だけでなく、被害児童生徒の発達段階や特性を踏まえて、本人にも丁寧に説明し、双方の意向を確認するものとしております。

確認に当たりましては、被害児童生徒又は保護者のどちらかが公表を望まない場合については原則として公表しない旨をあらかじめお伝えするというのを再度ここに記載してございます。

次に、4、公表の仕方及び内容についてでございます。文科省のガイドラインにも「公表の仕方及び公表内容を被害生徒・保護者と確認すること」とあります。被害者の公表の仕方及び公表について丁寧に説明・確認、了解を得た上で公表することと、記載しております。(1)では、公表方法について、3ページにお進みいただき、(2)の公表資料についてということで挙げてございます。そして、次に(3)個人情報の取扱いということで、公表資料における個人情報保護についての考え方につきましては、文科省ガイドラインで、「各地方公共団体の情報公開条例に照らして適切に判断すること」とされております。

そして、このいじめ重大事態の調査結果の公表につきましては、被害者、加害者等の関係者側をはじめ、関係する児童生徒・保護者にとって、地域社会の生活を超えて広く大衆の目を向けられることとなります。よって、一度メディアやネットワークに出ると、本人の意思に関わらず永久に残っていくことが懸念されることから、公表内容は個人が識別されないように留意し、関係する全ての児童生徒の人格を傷つけたり、その健やかな成長を阻害したりしないように最大限に配慮していくことということで、

このガイドラインに挙げてございます。

そして、公表する期間ということで、原則として6か月間ということです。この6か月間につきましては、法の定めはございません。ただ、市の公表する際の期間を確認しましたら、他市も、そして本市でも6か月間というのが一定のルール化されているとのことですので、このガイドラインにつきましても6か月と考えてございます。

また、公表中に被害者側の公表に対する意向の変化が生じた場合等、公表の継続が難しくなるような事情が生じた場合につきましては、公表を中止することもありますということを付け加えております。そして、非公表となった場合においても、原則として公表の再検討も行わないことということも付け加えております。

以上、このガイドラインの御報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○**冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問・御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に、泉南市就学援助費支給要綱の一部改正について、小林教育サービス課長兼教育サービス係長から報告がございました。

○**小林教育サービス課長兼教育サービス係長**

報告第2号、事務局報告(2) 泉南市就学援助費支給要綱の一部改正について説明させていただきます。

要綱の本文の変更はございません。今回、3から6ページにございます就学援助費の受給申請書の様式の改正となります。様式第1号が、通常の就学援助費・特別支援教育就学奨励費受給申請書になっておりまして、様式第2号が就学援助費(小学校入学準備金)受給申請書の様式となっております。

改正させていただいている細かなところは7から10ページにございます新旧対照表を御覧いただきたいと思います。主な改正点は、今

回、小学校入学準備金の受給申請を泉南市スマート申請からもできるようにと考えております。そのスマート申請に対応させるためにマッピングということをする必要があるため、今まで丸を記入していただく欄が、丸ではなくチェック方式で記入していただくような形になっております。

また、今後は就学援助費もスマート申請できることを視野に入れまして、1号様式と2号様式が同じような形になるように改正をさせていただきました。

以上、報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

○**冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問・御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

では、御意見がないようですので、本報告を終了いたします。

次に、日程第8、その他、せんなん子ども相談の運用状況について、鳴戸人権国際教育課長から説明がございました。

○**鳴戸人権国際教育課長** 失礼いたします。

それでは、その他報告といたしまして、せんなん子ども相談の運用状況について御報告させていただきます。

その他(1)の資料を御覧いただけたらと思います。7月18日までの10日間で、各学校において、クラスごとに体験と、相談フォームの説明と体験をやっていただきまして、19日の終業式の日から運用を開始しております。その後、7月末までの約10日ちょっとですけれども、その間に52件の相談が寄せられています。

内訳としまして、学校別と、それから相談内容別、相談相手別で作らせてもらっています。その中で、一番下に書いています未対応というのは、子どもたち学校で説明を受けた後で、家でも1回実際に一回試しでやってみたというような形で実際の相談ではなかったケース

とか、相談フォームでの「相談を始めますか」というところで「はい」を押していくと、内容を書いていって相談内容を送れるんですけど、「いいえ」で送信した場合は、相談じゃないけど、こっちには通知としてくるので、そういったものになっておりますので、未対応というのは今後もまた発生してくるかなと思っております。

一番多かったのは、やはり友達のことなんですけれども、これについては、友達が何か嫌な思いをしていることに対して、自分が見ていて気になって相談した子や、逆に自分が友達から何か嫌なことをされてというのと両方ありました。それから、家族のことというところと言うと、家族から何か言われたりされたりして、ちょっと嫌だとか、家族のことについて先生に知ってもらいたいというような内容が多かったかと思います。先生のことについては特に、先生から何かされてとかじゃなくて、先生のことを心配しているということであったり、先生のことをもっと知りたいというような内容が多かったかと思います。

あと、相談相手としましては、学校の担任の先生が半分以上になります。多くの場合は学校の担任の先生に聞いてほしいことですが、一部保健の先生や教育委員会の人もありました。相談したくはないので、取りあえず知っておいてほしいというような子も3人ほどいました。

また、定期的に教育委員の皆様にも御報告させてもらえたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、夏休み中ということもあって、相談は学校とは共有はしているんですけども、登校日がないなどで、まだ相談の対応ができていないケースもあります。それは1学期末の体験のときにも学校で説明していただいているので、2学期の始業式に対応してもらおうことになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○**冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問・御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

以上で本日の日程は全て終了しました。

これまでの報告、議案のほかに、御質問、御意見等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、次回、泉南市教育委員会会議令和6年第9回定例会の日程について、お諮りしたいと思います。

原則、第3水曜日の前後としておりますが、日程について水田教育総務課長から提案をお願いいたします。

○**水田教育総務課長** 次回なんですけれども、令和6年9月25日15時からということで提案したいと思います。いかがでしょうか。

(日程調整)

○**冨森教育長** それでは、次回の教育委員会会議定例会の開催日時は、令和6年9月25日水曜日15時からといたします。

以上をもちまして、泉南市教育委員会会議令和6年第8回定例会を閉会いたします。長時間ありがとうございました。

午後5時10分閉会

署 名 ()
()